

## 令和6年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

郡本遺跡群（郡本地区第35次）・市原郡衙推定地

郡本遺跡群（郡本地区第36次）・市原郡衙推定地

郡本遺跡群（郡本地区第38次）・市原郡衙推定地

山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点）

山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点1）

五霊台遺跡（第4地点）

五霊台遺跡（第4地点1）

2025

市原市教育委員会



## 令和6年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

こおりもと 郡本遺跡群（こおりもと 郡本地区第35次）・いちはらぐんが 市原郡衙推定地

こおりもと 郡本遺跡群（こおりもと 郡本地区第36次）・いちはらぐんが 市原郡衙推定地

こおりもと 郡本遺跡群（こおりもと 郡本地区第38次）・いちはらぐんが 市原郡衙推定地

さんしん 山新遺跡・あねさきふたごづか 姉崎二子塚古墳（第5地点）

さんしん 山新遺跡・あねさきふたごづか 姉崎二子塚古墳（第5地点1）

ごりょうだい 五霊台遺跡（第4地点）

ごりょうだい 五霊台遺跡（第4地点1）

2025

市原市教育委員会



## 序 文

市原市は、房総半島のほぼ中央部に位置し、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境に恵まれています。この豊かな地に古くから暮らした人々の痕跡は、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧尼寺跡に代表される埋蔵文化財となって当時の状況を私たちに伝えてくれます。こうした先人が残した歴史的遺産は後世に伝えるべきものですが、市原市を発展させるためには民間開発事業とのバランスが必要となります。

本報告書は、令和5年度、令和6年度に実施した個人住宅建設に伴う発掘調査の成果をまとめたものであり、発掘調査と報告書の作成に当たっては、国及び県の補助を受けて実施しております。本事業は、個人住宅建設等に伴う市民の負担軽減を目的としており、発掘調査自体は規模の大きなものではありません。しかし、今回の調査においても、古墳や竪穴建物跡など多くの遺構が検出され、本市の歴史を辿る貴重な調査成果を得ることができました。本書が学術資料にとどまらず、多くの市民の方々が、郷土に魅力を感じ、文化財の保護の重要性を理解していただくための資料として広く活用されることを願います。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御尽力をいただきました文化庁記念物課、千葉県教育庁教育振興部文化財課、並びに地元関係者の方々のこれまでの御努力に対し、厚くお礼申し上げます。

令和7年3月

市原市教育委員会  
教育長 藤谷 誠
















## 例言・凡例

- 1 本報告書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下の通りである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
  - (1) 郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地(調査コードセ616)  
確認調査 18.8 m<sup>2</sup>/188 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和5年12月8日～令和5年12月26日 担当 川上知哉
  - (2) 郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地(調査コードセ617)  
本調査 3.25 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和5年12月26日～令和5年12月27日 担当 川上知哉
  - (3) 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地(調査コードセ619)  
本調査 85.78 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和6年4月5日～令和6年5月2日 担当 川上知哉
  - (4) 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)(調査コードセ621)  
確認調査 32.763 m<sup>2</sup>/327.63 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和6年8月26日～令和6年8月28日 担当 鈴木宏和
  - (5) 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)(調査コードセ622)  
本調査 63.97 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和6年8月29日～令和6年9月6日 担当 鈴木宏和
  - (6) 五霊台遺跡(第4地点)(調査コードセ623)  
確認調査 29.7 m<sup>2</sup>/297 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和6年10月30日～令和6年11月7日 担当 鈴木宏和
  - (7) 五霊台遺跡(第4地点1)(調査コードセ624)  
本調査 3.68 m<sup>2</sup>  
調査期間：令和6年11月8日～令和6年11月11日 担当 鈴木宏和
- 4 整理作業・本文執筆及び編集は(1)～(3)を川上が行い、その他の執筆・編集は鈴木が担当した。
- 5 (1)～(3)の出土土器の分類・年代は、永田・不入窯産須恵器(財団法人千葉県文化財センター1993)、中世在地土器カワラケ(櫻井ほか2009)、中世陶器(柴垣ほか2012)、貿易陶磁器(山本2000)の各文献を参考にした。
- 6 各遺跡の調査に際し、(1)～(7)は、遺跡近隣の市原市管理の既知点から座標値及び水準を求めて使用している。
- 7 出土遺物と記録類は、市原市埋蔵文化財調査センター(千葉県市原市能満1489番地)で収蔵・保管している。
- 8 (1)・(2)の調査は前年度の実施であるが、後半期であったため今年度の整理・報告対象とした。

また今年度は、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点)(調査コードセ625)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点1)(調査コードセ626)、郡本遺跡群(郡本地区第39次第36地点)(調査コードセ627)、郡本遺跡群(郡本地区第40次第36地点1)(調査コードセ628)、君塚天神山古墳(調査コードセ629)の調査も行ったが、後半期の実施で整理期間がとれなかったため次年度の報告とする。

- 9 遺物写真(垂直)の縮尺は、基本的に実測図に準じる。
- 10 平面図及び土層断面の「K」は攪乱を示している。
- 11 本書で示す北は座標北である。
- 12 座標値は世界測地系に基づく。座標値・標高ともm単位で表示している。
- 13 本書内において、( )を付した数値は残存値、?を付した数値は推定値を表す。
- 14 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。
- 15 挿図における網掛け部分・ドット表示等の用例は下記による。

## 凡 例

遺構(平面図及び断面図)	遺物
 炭化物  焼土  硬化面  粘土	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 遺物点(土器)</li> <li>△ 遺物点(土製品・瓦)</li> <li>■ 遺物点(石)</li> <li>* 遺物点(金属製品)</li> <li>△ 遺物点(木製品)</li> <li>* 遺物点(骨)</li> </ul>
	 赤彩  施釉  灰釉  黒色処理  ←→ 研磨痕範囲
	 中世陶磁器断面  金属製品断面  須恵器断面  近世以降陶磁器断面

### 内容物の表記

ローム粒子	→	ロ粒
ロームブロック	→	ロブ
焼土粒子	→	焼粒
炭化物粒子	→	炭粒
白色粘土粒子	→	白粘粒
白色粘土ブロック	→	白粘ブ

# 本文目次

1	調査遺跡の位置と概要	1
2	郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地	3
	郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地	
	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地	
3	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)	17
4	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)	20
5	五霊台遺跡(第4地点)	23
6	五霊台遺跡(第4地点1)	28

# 挿図目次

第1図	調査遺跡位置図	1
第2図	郡本遺跡群(郡本地区第35・36・38次)・市原郡衙推定地 周辺地形図	5
第3図	郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図	7
第4図	郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地 遺物実測図	8
第5図	郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図	9
第6図	郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地 遺物実測図	10
第7図	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図(1)	11
第8図	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 断面図(2)	12
第9図	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(1)	13
第10図	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(2)	14
第11図	郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(3)	15
第12図	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 周辺地形図	17
第13図	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 平面図・断面図・遺物実測図	18
第14図	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1) 平面図・断面図・遺物実測図	21
第15図	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1) 測量図	22
第16図	五霊台遺跡(第4地点) 周辺地形図	23
第17図	五霊台遺跡(第4地点) 平面図・断面図・遺物実測図(1)	24
第18図	五霊台遺跡(第4地点) 遺物実測図(2)	25
第19図	五霊台遺跡(第4地点1) 平面図・断面図・遺物実測図	28

# 表目次

第1表	郡本遺跡群調査一覧	4
第2表	出土遺物観察表	29

# 図版目次

図版 1	遺構	郡本遺跡群(郡本地区第35次・第36次・第38次)
図版 2	遺構	郡本遺跡群(郡本地区第38次)／山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)
図版 3	遺構	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点・第5地点1)／五霊台遺跡(第4地点)
図版 4	遺構	五霊台遺跡(第4地点・第4地点1)
図版 5	遺物	郡本遺跡群(郡本地区第35次・第36次・第38次)／五霊台遺跡(第4地点)
図版 6	遺物	郡本遺跡群(郡本地区第36次・第38次)
図版 7	遺物	郡本遺跡群(郡本地区第38次)
図版 8	遺物	山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点・第5地点1)／五霊台遺跡(第4地点・第4地点1)



# 1 調査遺跡の位置と概要

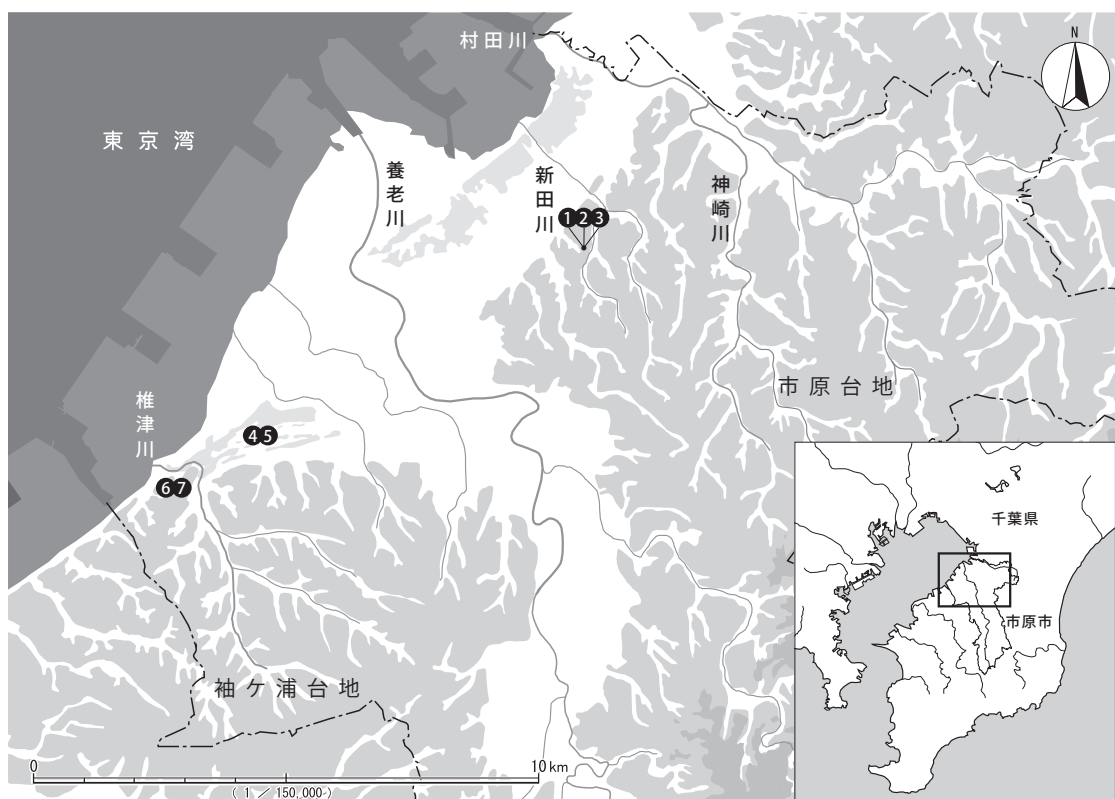
令和6年度は、郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)、五霊台遺跡(第4地点)、五霊台遺跡(第4地点1)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点1)、郡本遺跡群(郡本地区第39次第36地点)、郡本遺跡群(郡本地区第40次第36地点1)、君塚天神山古墳の計10地点の発掘調査を行った。

調査原因は、個人住宅建設が9件、その他建物建設が1件である。本書では今年度を実施した分に加えて、令和5年度後半に調査した郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地、郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地の成果も併せて掲載している。

また令和6年度末に調査を行った椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点1)、郡本遺跡群(郡本地区第39次第36地点)、郡本遺跡群(郡本地区第40次第36地点1)、君塚天神山古墳の5件は来年度の整理報告対象とする。

今回報告する7地点は市域北半部に点在しており、養老川右岸の市原台地上に3地点、椎津川右岸の砂堆上に2地点、椎津川河口部左岸台地上に2地点が位置する。

市原市内では八幡・郡本・藤井・能満地区に数多くの中世遺跡が展開している。八幡は14世紀後半頃には湊町として発展し、八幡浦に面した海岸砂堆上に市原(飯香岡)八幡宮が所在する(櫻井



- ① 郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地
- ② 郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地
- ③ 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地
- ④ 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)
- ⑤ 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)
- ⑥ 五霊台遺跡(第4地点)
- ⑦ 五霊台遺跡(第4地点1)

第1図 調査遺跡位置図

2005)。能満は、かねてから中世の都市的空間が復元可能な地域として注目されてきた。能満遺跡群・能満城跡(鈴木2024)に隣接する土塁と堀跡は、馬場ノ内館跡に比定されている(近藤2003・2005)。馬場ノ内館跡の成立・変遷過程については未だ不明な点が多いが、14世紀代に存続期間を持つ守護所・守護代所の可能性が指摘されている(鈴木2024)。郡本・藤井は字名や守公神の伝承から、中世の国衙機構との関係性が深い地区だと考えられる(小川2001、鈴木2007、宮本1999)。郡本遺跡群(郡本地区)は市原郡衙推定地の一つとされるが、西部の調査では中世遺構群が目立つ。郡本遺跡群郡本地区第22・26次調査(第1表K㉗・K㉘)では方形区画台地整形遺構が出土している(近藤2010、小橋ほか2013)。今回調査区から北西約30～40 mに位置する第23・24次調査(第1表K㉚・K㉛)では幅員約8.5 mの断面V字状を呈する東西方向の堀跡が確認されており、今回検出遺構と連続する可能性が高い。今回検出した堀跡は13世紀代に存続期間を持ち、堀内側に土塁が築造されていた可能性がある。

山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)・山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)は、姉崎古墳群の中期を代表する二子塚古墳の後円部外周の調査である。姉崎二子塚古墳は國學院大學により、墳丘の発掘調査が行われ、直弧文石枕や銀製垂飾付耳飾等が出土している(大場・亀井1951)。その後、平成18年、26年に前方部の南西地点を調査しており、円筒埴輪や古墳時代中期の高杯等が出土している(木對2007、小川2015)。令和4年度には後円部北側の確認・本調査を行っており、周溝覆土から円筒埴輪・木製品等が出土している(川上2024)。

五霊台遺跡(第4地点)は、古墳時代の居住域と円墳群が検出された第1地点の北東に隣接する。第1地点では、古墳時代前期の竪穴建物跡30棟、古墳5基、古墳時代後期以降の竪穴建物跡12棟が検出された(高橋1998)。円墳周溝群は古墳時代中期に比定される。外径は25～11 mほどのバラつきがあり、北寄りのものが相対的に大きな規模になる傾向がある。いずれも墳丘盛土は遺存せず、主体部は検出されていない。円筒埴輪片が数点出土しているが、外郭古墳に由来すると見られる。第3地点では中世の大規模な地山整形痕跡が確認されたほか、弥生時代終末期、奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出され、第1地点からの遺構分布の連続性が認められた(中野2019)。今回の調査成果では、第1地点で確認されていた古墳時代前期の居住域と中期の円墳周溝群がさらに北側にも展開していることが分かった。

#### 引用参考文献

- 小川信2001『中世都市「府中」の展開』思文閣史学叢書 株式会社思文閣出版
- 近藤敏2003「5.能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報—平成12年度—』(財)市原市文化財センター
- 近藤敏2005「14.能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報—平成15・16年度—』(財)市原市文化財センター
- 近藤敏2010『市原市郡本遺跡群(第12次)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第14集 市原市教育委員会
- 櫻井敦史2005「市原八幡宮と中世八幡の都市形成—文献・考古・石造物史料から—」『市原市文化財センター研究紀要V』(財)市原市文化財センター
- 鈴木哲雄2007「第1編 鎌倉時代の房総 第2章 房総における中世の世界 第2節 中世房総の開発と房総三国の国衙支配」『千葉県歴史 通史編 中世』千葉県史料研究財団
- 鈴木宏和ほか2024『市原市能満遺跡群・能満城跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第62集 市原市教育委員会
- 宮本敬一1999「忘れられた社寺—守公神と神主院」『歴史散歩史料 市原市郡本周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ 第四輯

## 2 郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地 郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地

### 遺跡周辺の環境

郡本遺跡群は東京湾の旧海岸線から南東に約2.5km内陸の台地上に位置し、標高は約25mである。遺跡の広がりには台地平坦面のおよそ1km四方に及ぶ(第2図)。今回の調査区は遺跡群南西部、郡本八幡神社の西隣にあり、現在の鳥居に面する位置にある。

郡本地区周辺は昭和39年度の平野元三郎氏らの調査以来、多数の発掘調査が実施されており、弥生時代後期から平安時代の竪穴建物跡や平安時代の掘立柱建物跡、中世の溝などが確認されている(第1表)。特に、今回調査区北西約30～40mに位置する第23・24次調査(K㉘・K㉙)では、13世紀には機能したと見られる幅員約8.5mの断面V字状を呈する堀跡が検出されている(牧野2010、田所2011)。この堀跡は東西に延びるものの、第10・18次調査区(K㉕・K㉖)では検出されていない(小川1998、牧野2009)。加えて、千葉県文化財センターによる神社北辺を東西に通る県道五井本納線沿いの調査でも確認されていないことから(相京・伊藤2004)、この堀跡は第10次調査区の手前で南方向へ屈折すると予想される。

この他、南西約150mの第26次調査区(K㉚)では、台地整形区画や15世紀代を中心とした遺物(カワラケ・陶器等)、遺構(掘立柱建物跡群・地下式坑等)が検出されている(小橋2013)。また、五井本納線北側では第2・6・12次調査時(K㉑・K㉒・K㉓)に9世紀～11世紀の竪穴建物跡や奈良～平安時代の東西棟の掘立柱建物跡等が確認されており、「吉」の線刻や「得」・「大」・「亢」の墨書土器が出土している(木對1987、田中1995、鶴岡1999)。加えて、今回調査区北東約150m地点の県センター平成5年度調査第3区から緑釉陶器陰刻花文輪花皿が出土している(相京・伊藤2004)。

### 調査概要

調査は個人住宅の建設に先立ち事業範囲188㎡を対象に令和5年12月に行なった確認調査(第35次第34地点)ならびに浄化槽設置予定範囲3.25㎡の本調査(第36次第34地点1)である。また、第38次第34地点2は建物基礎範囲と設置場所が変更された浄化槽範囲の計85.78㎡を対象に実施した本調査である。遺構確認面はハードローム層である。

第35次(確認調査)は調査区の南北に東西方向のトレンチを2箇所設定した。遺構確認面までの深さは、南側の1トレンチで約0.8m、北側の2トレンチで約0.8～0.9mであり、両トレンチから中世溝(SD01)が検出された。

第36次(本調査)は確認調査の2トレンチの北壁中央からやや東側に位置する当初の浄化槽設置予定範囲を対象にし、中世溝(SD01)の覆土を掘り下げた。

第38次(本調査)は建物基礎部分84.14㎡と変更された浄化槽設置予定範囲1.64㎡を対象に令和6年4月～5月に実施した。建物基礎部分ではほぼ全域で中世溝(SD01)、浄化槽範囲では時期不明の土坑2基が検出された。SD01は第36次の調査成果から、遺構確認面からの深度が1.9m以上となることが予想された。よって、安全を確保するために全域の掘削は断念し、建物基礎範囲はスイッチバックを実施し、北側→南側の順で2箇所の一部を深く掘削し、溝の底面を検出した。出土遺物は溝

第1表 郡本遺跡群調査一覧

	調査時遺跡名	調査時回数	調査年度	調査コード	調査区分	遺跡名	新地区名	新回数	新地点名	報告
K①	郡本遺跡群	第1次	1986	セ39	確	郡本遺跡群	郡本地区	第1次	第1地点	1986『S60年報』
K②	郡本遺跡群	第1次	1986	セ39	本	郡本遺跡群	郡本地区	第2次	第1地点1	1987『市原市郡本遺跡』
K③	古甲遺跡	1次A区	1991	セ145	確	郡本遺跡群	郡本地区	第3次	第2地点	1994『上総国府推定地(1)』
K④	古甲遺跡	1次B区	1991	セ145	確	郡本遺跡群	郡本地区	第3次	第3地点	1994『上総国府推定地(1)』
K⑤	古甲遺跡	2次	1992	セ166	確	郡本遺跡群	郡本地区	第4次	第4地点	1994『上総国府推定地(1)』
K⑥	古甲遺跡	レーダー	1994	-	レ	郡本遺跡群	郡本地区	第5次	第5地点	1997『H5年報』
K⑦	郡本遺跡群	第2次	1994	セ188	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第6次	第6地点	1995『市原市郡本遺跡(第2次)』
K⑧	古甲遺跡	3次	1995	セ199	確	郡本遺跡群	郡本地区	第7次	第7地点	1997『H6年報』
K⑨	古甲遺跡	4次	1996	セ220	確	郡本遺跡群	郡本地区	第8次	第8地点	1998『H7年報』
K⑩	古甲遺跡	5次A地点	1997	セ241	確	郡本遺跡群	郡本地区	第9次	第9地点	2000『H8年報』
K⑪	古甲遺跡	5次B地点	1997	セ241	確	郡本遺跡群	郡本地区	第9次	第10地点	2000『H8年報』
K⑫	古甲遺跡	5次C地点	1997	セ241	確	郡本遺跡群	郡本地区	第9次	第11地点	2000『H8年報』
K⑬	古甲遺跡	5次D地点	1997	セ241	確	郡本遺跡群	郡本地区	第9次	第12地点	2000『H8年報』
K⑭	古甲遺跡	5次E地点	1997	セ241	確	郡本遺跡群	郡本地区	第9次	第13地点	2000『H8年報』
K⑮	郡本遺跡群	第3次	1997	セ244	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第10次	第14地点	1998『H9市内遺跡』
K⑯	郡本遺跡群	第4次	1997	セ246	確	郡本遺跡群	郡本地区	第11次	第15地点	1998『H9市内遺跡』
K⑰	郡本遺跡群	第4次	1997	セ258	本	郡本遺跡群	郡本地区	第12次	第15地点1	1999『市原市郡本遺跡(第4次)』
K⑱	郡本遺跡群	第5次	1998	セ273	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第13次	第16地点	1999『H10市内遺跡』
M①	郡本遺跡群	-	2001	セ344	確・本	郡本遺跡群	門前地区	第1次	第1地点	2004『H13・14年報』
K⑲	古甲遺跡	6次	2001	セ354	確	郡本遺跡群	郡本地区	第14次	第17地点	2004『H13・14年報』
K⑳	郡本遺跡群	文化課直営	2002	-	本	郡本遺跡群	郡本地区	第15次	第18地点	未報告
K㉑	郡本遺跡群	第6次	2004	セ394	確	郡本遺跡群	郡本地区	第16次	第19地点	2005『H16市内遺跡』
K㉒	郡本遺跡群	第7次	2007	セ420	確	郡本遺跡群	郡本地区	第17次	第20地点	2008『H19市内遺跡』
K㉓	郡本遺跡群	第8次	2007	セ429	確	郡本遺跡群	郡本地区	第18次	第21地点	2009『H20市内遺跡』
K㉔	郡本遺跡群	第9次	2008	セ432	確	郡本遺跡群	郡本地区	第19次	第22地点	未報告
K㉕	郡本遺跡群	第10次	2008	セ443	確	郡本遺跡群	郡本地区	第20次	第23地点	2009『H20市内遺跡』
K㉖	郡本遺跡群	第11次	2008	セ444	確	郡本遺跡群	郡本地区	第21次	第24地点	2009『H20市内遺跡』
K㉗	郡本遺跡群	第12次	2009	セ449	本	郡本遺跡群	郡本地区	第22次	第24地点1	2010『市原市郡本遺跡群(第12次)』
K㉘	郡本遺跡群	第13次	2009	セ452	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第23次	第25地点	2010『H21市内遺跡』
K㉙	郡本遺跡群	第14次	2010	セ459	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第24次	第26地点	2011『H22市内遺跡』
K㉚	郡本遺跡群	第15次	2012	セ493	確	郡本遺跡群	郡本地区	第25次	第27地点	2013『H24市内遺跡』
K㉛	郡本遺跡群	第15次	2012	セ495	本	郡本遺跡群	郡本地区	第26次	第27地点1	2013『市原市郡本遺跡群(第15次)』
K㉜	郡本遺跡群	第16次	2012	セ494	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第27次	第28地点	2013『H24市内遺跡』
K㉝	郡本遺跡群	第17次	2013	セ509	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第28次	第29地点	2014『H25市内遺跡』
F①	郡本遺跡群	第18次	2013	セ510	確	郡本遺跡群	藤井地区	第1次	第1地点	2014『H25市内遺跡』
K㉞	郡本遺跡群	第19次	2013	セ515	確	郡本遺跡群	郡本地区	第29次	第30地点	2014『H25市内遺跡』
K㉟	郡本遺跡群	第20次	2013	セ519	確	郡本遺跡群	郡本地区	第30次	第31地点	2014『H25市内遺跡』
F②	郡本遺跡群	第21次	2013	セ521	確・本	郡本遺跡群	藤井地区	第2次	第2地点	2014『H25市内遺跡』
K㊱	郡本遺跡群	第22次	2014	セ525	確・本	郡本遺跡群	郡本地区	第31次	第32地点	2015『H26市内遺跡』
F③	郡本遺跡群	第23次	2017	セ555	確	郡本遺跡群	藤井地区	第3次	第3地点	2018『H29市内遺跡』
K㊲	郡本遺跡群	第24次	2017	セ559	確	郡本遺跡群	郡本地区	第32次	第33地点	未報告
F④	郡本遺跡群	第25次	2018	セ560	確	郡本遺跡群	藤井地区	第4次	第4地点	2019『H30市内遺跡』
F⑤	郡本遺跡群	文化課直営	2019	-	本	郡本遺跡群	藤井地区	第5次	第4地点1	未報告
F⑥	郡本遺跡群	第25次	2020	セ577	本	郡本遺跡群	藤井地区	第6次	第4地点2	2021『R2市内遺跡』
K㊳	郡本遺跡群	第26次	2021	セ583	本	郡本遺跡群	郡本地区	第33次	第3地点1	2022『R3市内遺跡』
F⑦	郡本遺跡群	第27次	2021	セ588	本	郡本遺跡群	藤井地区	第7次	第4地点3・4	2022『R3市内遺跡』
I①	郡本遺跡群	第28次	2021	セ594	確	郡本遺跡群	市原地区	第1次	第1地点	2022『R3市内遺跡』
I②	郡本遺跡群	第29次	2022	セ598	確	郡本遺跡群	市原地区	第2次	第2地点	2023『R4市内遺跡』
I③	郡本遺跡群	第29次1	2023	セ611	本	郡本遺跡群	市原地区	第3次	第2地点1	2024『R5市内遺跡』
I④	郡本遺跡群	第29次2	2023	セ612	本	郡本遺跡群	市原地区	第4次	第2地点2	2024『R5市内遺跡』
I⑤	郡本遺跡群	第30次	2023	セ607	確	郡本遺跡群	市原地区	第5次	第3地点	2024『R5市内遺跡』
K㊴	郡本遺跡群	古甲7次	2023	セ614	本	郡本遺跡群	郡本地区	第34次	第7地点1	2025『郡本遺跡群』
K㊵	郡本遺跡群	第31次	2023	セ616	確	郡本遺跡群	郡本地区	第35次	第34地点	2025『R6市内遺跡』
K㊶	郡本遺跡群	第31次1	2023	セ617	本	郡本遺跡群	郡本地区	第36次	第34地点1	2025『R6市内遺跡』
K㊷	郡本遺跡群	第32次	2023	セ618	本	郡本遺跡群	郡本地区	第37次	第35地点	未報告
K㊸	郡本遺跡群	第31次2	2024	セ619	確	郡本遺跡群	郡本地区	第38次	第34地点2	2025『R6市内遺跡』
K㊹	郡本遺跡群	-	2024	セ627	確	郡本遺跡群	郡本地区	第39次	第36地点	未報告
K㊺	郡本遺跡群	-	2024	セ628	本	郡本遺跡群	郡本地区	第40次	第36地点1	未報告



- I : 郡本遺跡群 市原地区
- M : 郡本遺跡群 門前地区
- K : 郡本遺跡群 郡本地区
- F : 郡本遺跡群 藤井地区
- 太破線 : 郡本遺跡群
- 黒塗り : 千葉県文化財センター調査地点
- 細破線 : 平野元三郎調査 (S39年度)

郡本遺跡群 郡本地区  
 K40 第35次第34地点  
 K41 第36次第34地点1  
 K43 第38次第34地点2

第2図 郡本遺跡群(郡本地区第35・36・38次)・市原郡衙推定地 周辺地形図

0 200m  
 (1/5,000)  
 (市原市基本図1/2500 昭和55年)

部掘方の傾斜変換点（標高約21.3m）より下層約0.5m毎に区別して収集した。

各調査においてカワラケや中世陶器等が主体的に出土した。

## 遺構と遺物

### 第35次（確認調査）

1・2トレンチからSD01が南北方向に確認された（第3図）。また掲載遺物は1トレンチから検出された（第4図）。1～7はカワラケであり、1～5は杯、6・7は小皿である。2・4・5・6・7は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。8は貿易陶磁器龍泉窯産青磁皿Ⅰ類、大宰府編年XIV～XV期（12世紀中頃～12世紀後半）の口縁片と思われる。

### 第36次（本調査）

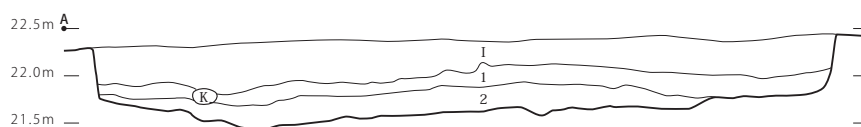
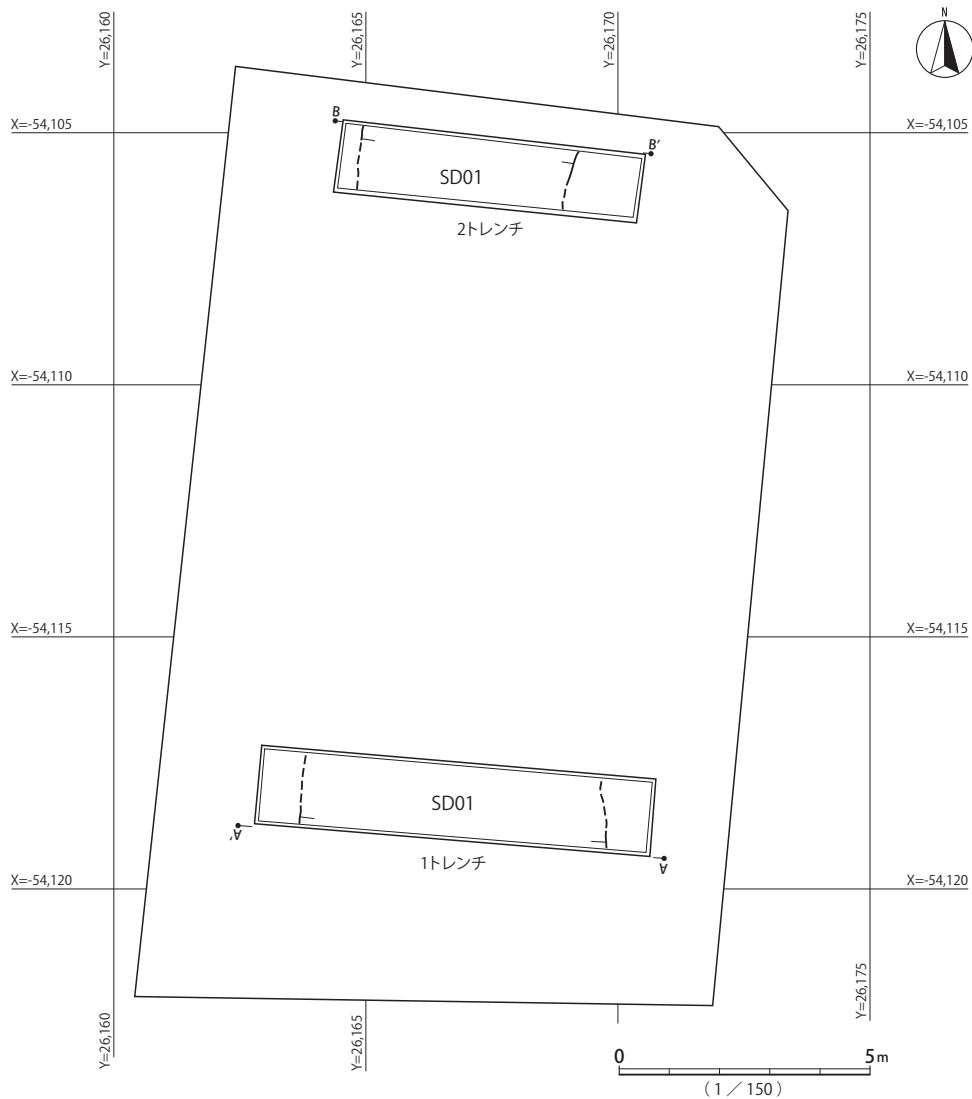
遺構確認面から深さ約1.9mでSD01の掘方の大部分を検出したが、底面までは到達しなかった（第5図）。また、本来の東側上端は本調査範囲東壁辺りに位置する可能性が高い。さらに、SD01の傾斜には3箇所段部があり、2段目下部の7～10層あたりに遺物が集中的に確認された。第6図1～19はカワラケであり、1～14は杯、15は小型杯、16・17は小皿、18・19は柱状高台土器の高台部である。1～4・6～8・10・11・14～17・19の14点は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。20は広東系貿易陶磁器白磁輪花皿Ⅴ類の口縁片、21は貿易陶磁器白磁皿Ⅶ類であり、いずれも大宰府編年XII～XIII期（11世紀後半～12世紀前半）の所産と思われる。

### 第38次（本調査）

変更後の浄化槽設置予定範囲からPit01・Pit02が検出された（第7図）。Pit01は南東隅に位置し、南側と東側は調査範囲外へ続く。深度は約0.4mである。Pit02は中央やや南側に位置し、0.32×0.24mの楕円形、深さは約0.2mである。実測対象遺物はなく、両ピットともに帰属時期は不明である。

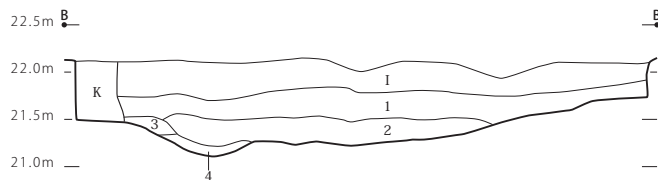
建物基礎部分では、南北2箇所の掘削部分で遺構確認面から深さ約2.9mの地点でSD01の底面を検出した。また建物基礎範囲の中央から北側のSD01東側にはテラス状の構造が検出されている。断面形状は南北ともにV字形を呈し、北側では底面が幅約0.5mの平坦面をなすことが確認された。また、南側では北側と比較し、溝の傾斜が急角度を成し、検出面からの深さ約1.9m地点で幅約0.2～0.5mの段部が形成されている。さらにSD01の中端から下の傾斜部には、遺構開削時に形成されたと思われる半円状の掘り込みや硬化面が幾つか確認され、特に北側で多く認められる。橋状の構造物が設置されていた可能性がある。

第9図1～21は掘方の傾斜変換点から約0.5mまでの深さ（標高約21.3～20.8m）で出土した。1は内面に暗文が施された古墳時代終末期の土師器杯、2は永田・不入窯産の須恵器盤類である。3～14はカワラケであり、3～7は杯、8は小型杯、9～13は小皿、14は柱状高台土器の高台部である。3～5・7は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。また、3の底部外面には線刻（直線状）が見られる。15は中世不明土器の容器類、16・17は常滑焼であり、16は播鉢、17は広口壺で12世紀末～13世紀初頭（3～4期）の所産と思われる。18は南伊勢系の中世土器の羽釜、19は龍泉窯産青磁小椀Ⅲ類であり、大宰府編年XVII～XIX期（13世紀中頃～14世紀初頭前後）の所産と思われる。20・21は貿易陶磁器白磁で20は福建省産で口縁に玉縁を有する椀Ⅱ類、21は皿Ⅶ類であり、21の底部外面には墨書（直線状、判読不能）が見られる。いずれも大宰府編年XII～XIII（11世紀後半～12世紀前半）の所産と考えられる。また、実測対象遺物ではないが、この標高範囲からトリベの小



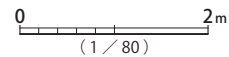
1トレンチ SPA-A'

- I 10YR 4/1 褐灰 口粒(1mm程度)少量、礫・ガラ多量 しまりやや強い 粘性なし
- 1 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~3mm)多量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/4 暗褐 口粒(1~5mm)多量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり



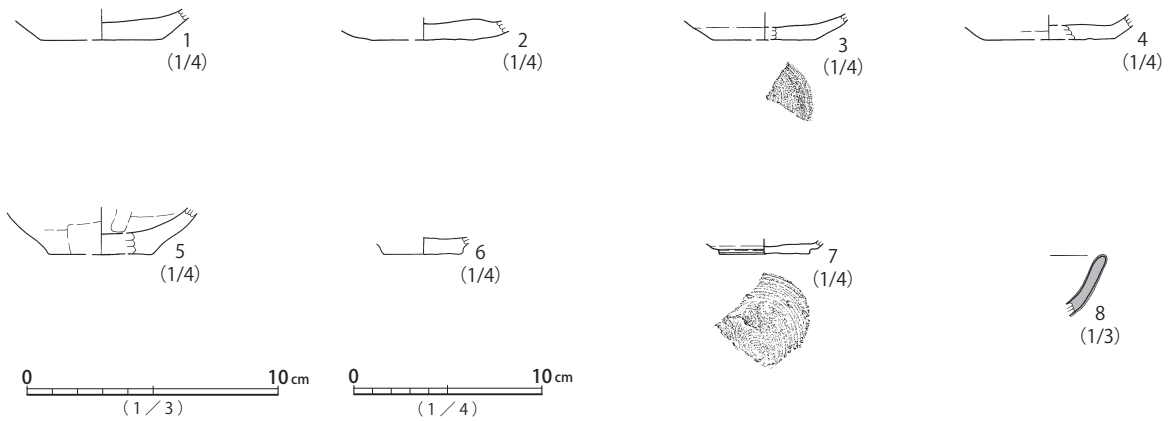
2トレンチ SPB-B'

- 1 10YR 4/1 褐灰 口粒(1mm程度)少量、礫・ガラ多量 しまりやや強い 粘性なし
- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐 口粒(1~5mm)多量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~5mm)多量、ロブ(5~10mm)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~5mm)少量、ロブ(5~15mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~3mm)含む、ロブ(5mm程度)多量 しまりやや強い 粘性あり



第3図 郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図

## 1 トレンチ



第4図 郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地 遺物実測図

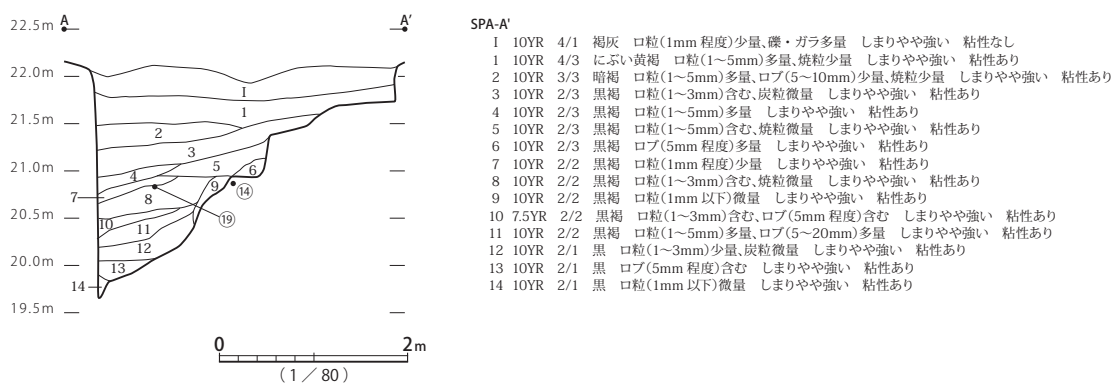
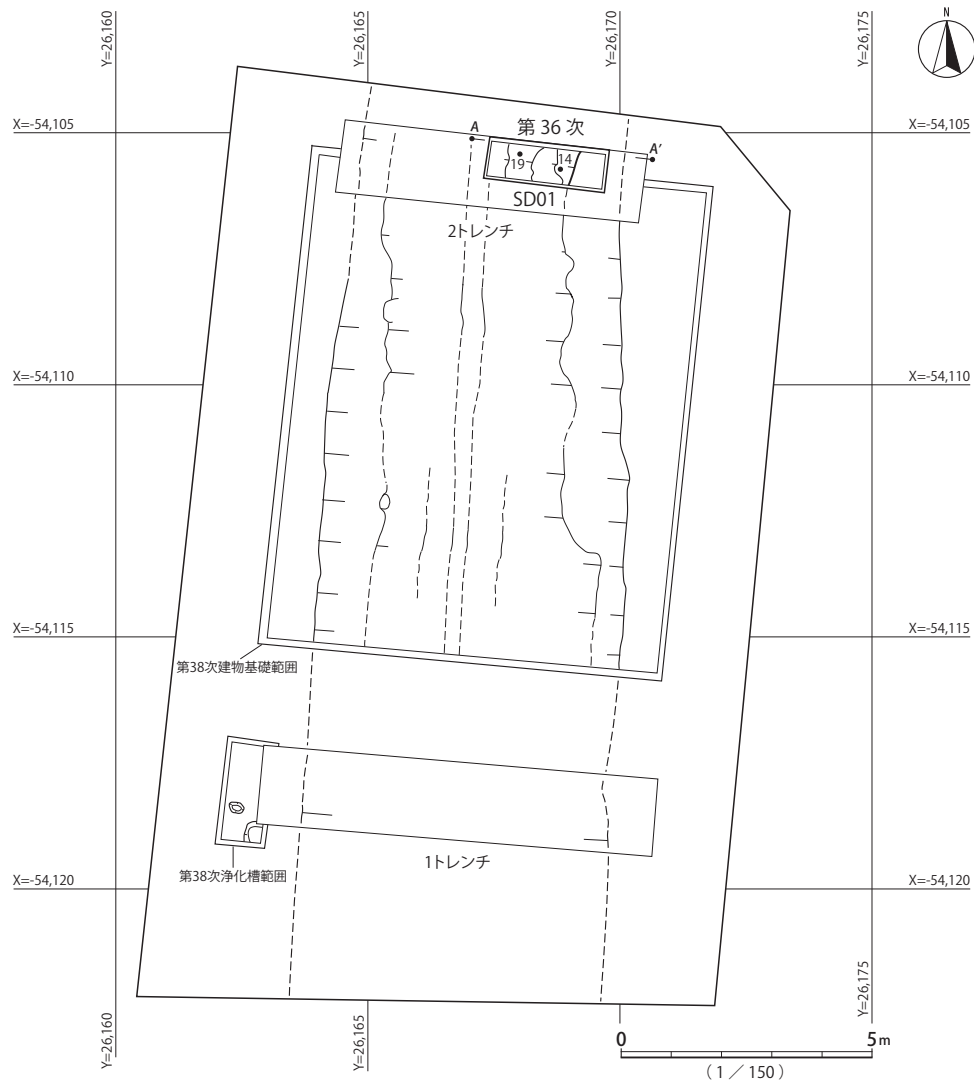
片が出土しており、内面は2次焼成により発泡している(図版6)。22～32は掘方の傾斜変換点から約0.5～1.0mの深さ(標高約20.8～20.3m)で出土した。22～30はカワラケで、22～26は杯、27は小型杯、28～30は小皿である。また、22～25・27は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。さらに、23の底部外面には網代状圧痕が見られる。31は備前産の中世陶器播鉢、32は鉄滓である。

第10図33～59は傾斜変換点から約1.0～1.5mの深さ(標高約20.3～19.8m)で出土し、この範囲において最も多くの遺物が確認された。33～55はカワラケであり、33～47は杯、48は小型杯、49～54は小皿、55は柱状高台土器の高台部である。また、33・34・36～44・46～50・52・54の18点は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。さらに、38・42は底部外面に網代状圧痕、40の底部外面に簀子状圧痕が見られる。56・57は渥美産中世陶器であり、前者は瓶壺類、後者は三筋壺で12世紀末～13世紀初頭の所産と考えられる。58は常滑産中世陶器皿類で、強い2次焼成により発泡・変形が見られることから、トリベに転用された可能性がある。59はトリベ、もしくは外面がガラス質になった羽口端部片である。また、実測対象遺物ではないものの、この標高範囲から炉壁の破片が4点出土している(図版7)。

第11図60～71は傾斜変換点から約1.5～2.0mの深さ(標高約19.8～19.3m)で出土した。60～67はカワラケであり、60～63は杯、64・65は小型杯、66・67は小皿である。また、60～66は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。さらに、60・65の底部外面には網代状圧痕が見られる。68・69は常滑産中世陶器であり、前者は瓶壺類、69は片口鉢Ⅱ類である。70は転用砥石であり、カワラケの小片を利用したものと思われる。71は鉄滓である。また、実測対象遺物ではないが、この標高範囲から炉壁の小片が1点出土している(図版7)。

72～75は傾斜変換点から約2.0m～底面の深さ(標高約19.3m～底面)で出土した。72～74はカワラケであり、72・73は杯、74は柱状高台土器の高台部である。また、72・73は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。75は不明石製品である。

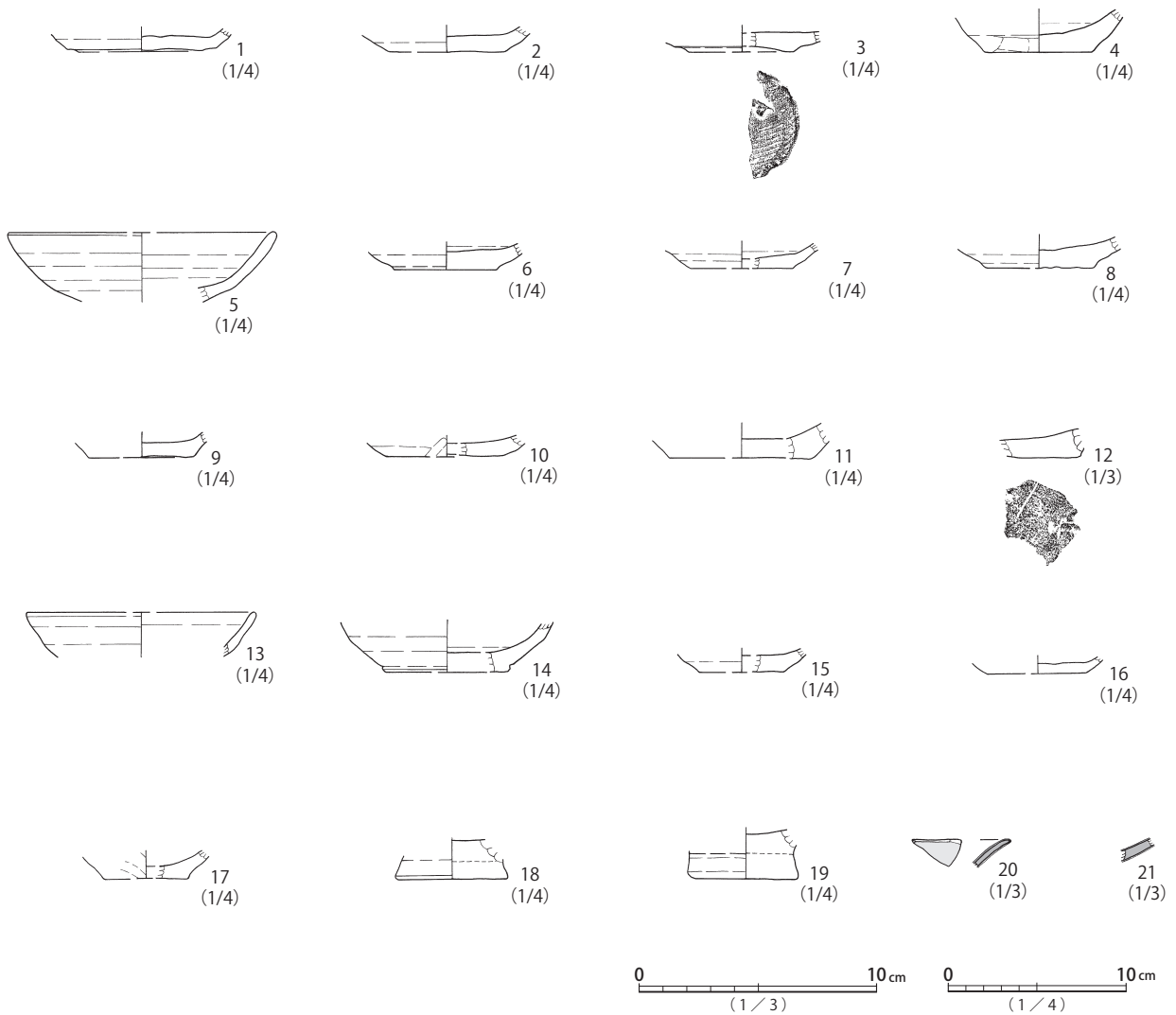
76・77は遺構一括取り上げ遺物であり、いずれもカワラケの杯である。また、76は底部内面に横方向のナデ調整が施されている。



第5図 郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図

SD01から出土したカワラケを上総国分僧寺跡の中世土器編年(櫻井ほか2009)に基づいて分類すると、XII~XIII期、特にXIII期に位置付けられる個体が主体を占める。また、溝底面付近からもXIII期に属すると考えられる杯(72)やXI~XII期の所産と思われる柱状高台土器(74)が出土している。

SD01

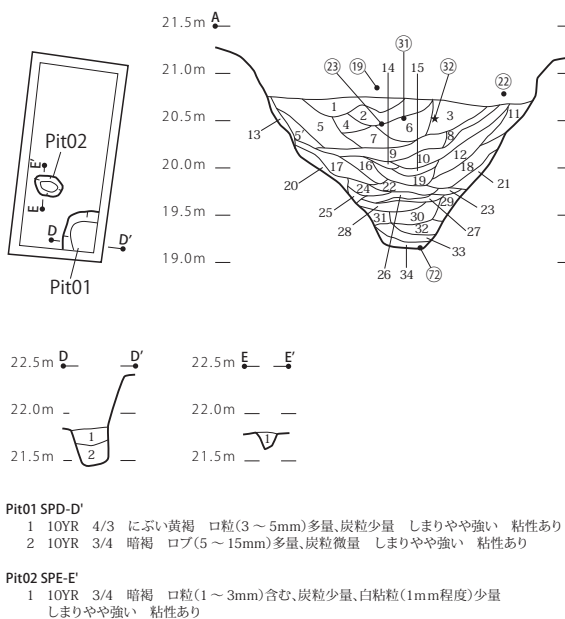


第6図 郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地 遺物実測図

また、傾斜変換点から約0.5mまでの深さで出土した土器群の中に、13世紀中頃～14世紀初頭頃の帰属と思われる貿易陶磁器青磁小椀(19)が認められる。こうした出土遺物の様相から、この遺構は13世紀後半をピークとし、遅くとも12世紀中頃には開削された可能性があり、14世紀中葉～後葉には埋没が進んでいたと推測される。

まとめ

今回の調査では、南北方向に延びる大溝(堀跡)の東西全幅が検出され、第23・24次調査区(K㉘・K㉙)で確認された堀跡の延長及び東縁を捉えることができた。過去の調査成果から、この堀跡は第10次調査区(K㉕)の手前で南方向へ屈折すると予想されるため、今回検出した堀跡と連続し、方形区画をなす可能性が高い。よって、今回調査区西側に中心施設があったと考えられる。また、第38次調査の土層断面図A-A'の10層は30～50mm大のロームブロックを大量に含み、かつ中心施設があったと思われる西側から傾斜して堆積している(第7図)。これは堀内側に沿って土塁のような盛土が付帯していた可能性を示す。さらに10層の堆積状況は人為的な埋め立て行為を示唆しており、



**A' SPA-A' (スイッチバック前)**

1	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)含む、焼粒微量	しまりやや強い	粘性あり
2	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1~3mm)含む、ロブ(5~10mm)微量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
3	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1~3mm)多量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い	粘性あり
4	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1~3mm)少量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
5	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~3mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
5'	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)少量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
6	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1~5mm)多量、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い	粘性あり
7	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~3mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
8	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~3mm)含む、ロブ(5mm程度)少量、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
9	10YR 3/2	黒褐	ロ粒(1~3mm)含む、ロブ(5~10mm)少量、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
10	10YR 3/3	暗褐	ロブ(30~50mm)多量、しまり強い	粘性あり	
11	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)少量、ロブ(5~8mm)微量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
12	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~3mm)含む、ロブ(5~10mm)少量、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
13	10YR 3/3	暗褐	ロブ(5~8mm)多量	しまり弱い	粘性あり
14	10YR 3/2	黒褐	ロ粒(1~5mm)少量	しまりやや強い	粘性あり
15	10YR 3/3	暗褐	ロブ(5~10mm)多量	しまりやや強い	粘性あり
16	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~3mm)少量、ロブ(5mm程度)微量	しまりやや強い	粘性あり
17	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1~5mm)含む、ロブ(5~20mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
18	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)少量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
19	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1mm以下)含む	しまりやや強い	粘性あり
20	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm以下)少量	しまり弱い	粘性あり
21	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm以下)少量	しまり弱い	粘性あり
22	10YR 6/6	明黄橙	ロブ(5~30mm)多量	しまり非常に強い	粘性あり
23	10YR 3/3	暗褐	ロブ(20~30mm)多量	しまり非常に強い	粘性あり
24	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(3~5mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
25	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(3~5mm)多量	しまり弱い	粘性あり
26	10YR 6/4	にぶい黄橙	ロブ(10~20mm)多量	しまり非常に強い	粘性あり
27	10YR 3/2	黒褐	ロ粒(1~5mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い	粘性あり
28	10YR 6/4	にぶい黄橙	ロブ(5~20mm)多量	しまり非常に強い	粘性あり
29	10YR 3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)少量	しまり弱い	粘性あり
30	10YR 4/3	にぶい黄褐	ロブ(10~20mm)含む、炭粒少量	しまり強い	粘性あり
31	10YR 5/4	にぶい黄褐	ロブ(20~30mm)多量、炭粒微量	しまり強い	粘性あり
32	10YR 3/3	暗褐	ロブ(10~20mm)多量、炭粒微量	しまりやや強い	粘性あり
33	10YR 6/4	にぶい黄橙	ロブ(20~30mm)多量、炭粒微量	しまり強い	粘性あり
34	10YR 6/4	にぶい黄橙	ロブ(10~20mm)多量	しまり強い	粘性あり

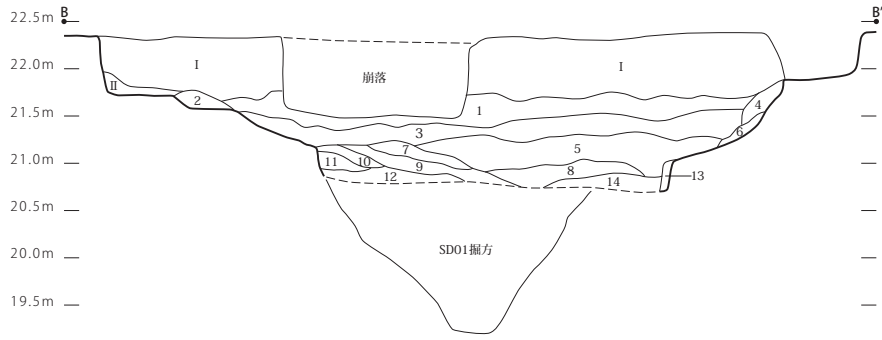
**Pit01 SPD-D'**

- 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(3~5mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
- 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5~15mm)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり

**Pit02 SPE-E'**

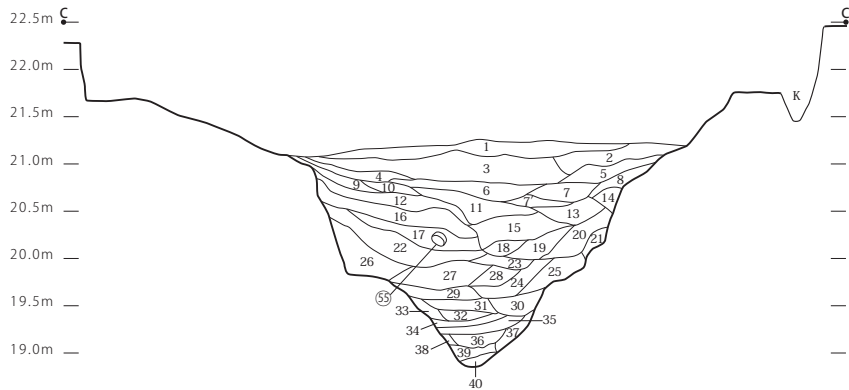
- 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1~3mm)含む、炭粒少量、白粘粒(1mm程度)少量 しまりやや強い 粘性あり

第7図 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 平面図・断面図(1)



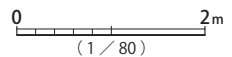
SPB-B' (スイッチバック前)

- |    |       |     |    |                               |         |      |
|----|-------|-----|----|-------------------------------|---------|------|
| 1  | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1~3mm)少量                   | しまり弱い   | 粘性あり |
| II | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1mm以下)微量                   | しまりやや強い | 粘性なし |
| 1  | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1mm程度)微量、炭粒微量              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2  | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | ロブ(5~8mm)含む                   | しまり弱い   | 粘性なし |
| 3  | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1mm程度)少量、炭粒少量              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 4  | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1mm以下)少量、ロブ(5mm程度)少量       | しまり弱い   | 粘性なし |
| 5  | 7.5YR | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1~5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量         | しまりやや強い | 粘性あり |
| 6  | 7.5YR | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1mm以下)少量                   | しまり弱い   | 粘性あり |
| 7  | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1mm程度)多量、ロブ(5mm程度)少量、炭粒少量  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 8  | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1mm程度)少量、炭粒微量              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 9  | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | 口粒(1~5mm)多量、ロブ(5~30mm)多量      | しまりやや強い | 粘性あり |
| 10 | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1mm程度)少量、ロブ(10mm程度)微量、炭粒少量 | しまりやや強い | 粘性あり |
| 11 | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1mm以下)少量、焼粒微量              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 12 | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1mm程度)少量、炭粒微量              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 13 | 10YR  | 3/3 | 暗褐 | ロブ(50mm程度)含む                  | しまりやや強い | 粘性なし |
| 14 | 10YR  | 3/2 | 黒褐 | 口粒(1~3mm)少量、炭粒微量、焼粒微量         | しまりやや強い | 粘性あり |



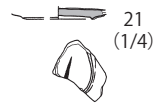
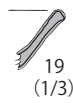
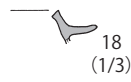
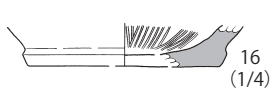
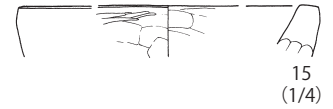
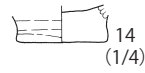
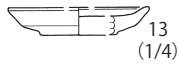
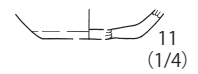
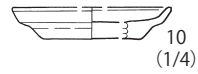
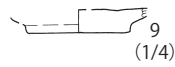
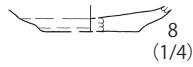
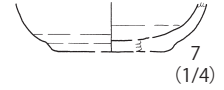
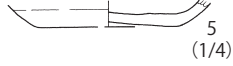
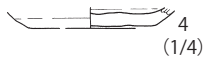
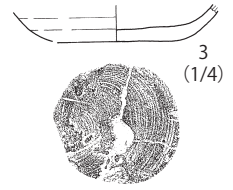
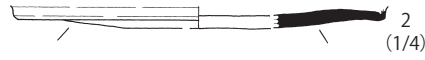
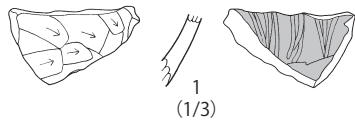
SPC-C' (スイッチバック後)

- |    |      |     |       |                                   |         |      |
|----|------|-----|-------|-----------------------------------|---------|------|
| 1  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)少量、焼粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)含む、ロブ(5mm程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 | しまり弱い   | 粘性あり |
| 3  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、ロブ(5mm程度)少量           | しまりやや強い | 粘性あり |
| 4  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)多量、ロブ(5mm程度)含む、炭粒微量      | しまりやや強い | 粘性あり |
| 5  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(3~5mm)少量、白粘ブ(5~10mm)含む         | しまりやや強い | 粘性あり |
| 6  | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、白粘ブ(5~10mm)少量、炭粒少量    | しまりやや強い | 粘性あり |
| 7  | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)含む、炭粒少量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 8  | 10YR | 3/3 | 暗褐    | ロブ(5mm程度)少量                       | しまりやや強い | 粘性あり |
| 9  | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~5mm)多量、炭粒微量                  | しまり弱い   | 粘性あり |
| 10 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、焼粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 11 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、ロブ(5~10mm)少量          | しまりやや強い | 粘性あり |
| 12 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)少量、ロブ(5~15mm)含む、炭粒少量     | しまりやや強い | 粘性あり |
| 13 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)少量、炭粒少量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 14 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~5mm)多量、ロブ(5~30mm)多量          | しまり弱い   | 粘性あり |
| 15 | 10YR | 2/3 | 黒褐    | 口粒(3mm程度)多量                       | しまり弱い   | 粘性あり |
| 16 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1~5mm)含む、炭粒少量、焼粒微量             | しまりやや強い | 粘性あり |
| 17 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1~5mm)含む、炭粒微量、焼粒微量             | しまりやや強い | 粘性あり |
| 18 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 19 | 10YR | 2/3 | 黒褐    | 口粒(1mm程度)多量、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 20 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(3~5mm)多量、ロブ(5mm程度)少量、炭粒少量      | しまりやや強い | 粘性あり |
| 21 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)少量、ロブ(5~20mm)含む、炭粒微量     | しまり弱い   | 粘性あり |
| 22 | 10YR | 4/4 | 褐     | 口粒(3~5mm)多量                       | しまり弱い   | 粘性あり |
| 23 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | 口粒(1~3mm)少量、ロブ(5mm程度)微量、炭粒微量      | しまりやや強い | 粘性あり |
| 24 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | 口粒(1~5mm)含む、ロブ(5~10mm)多量、炭粒微量     | しまり弱い   | 粘性あり |
| 25 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | ロブ(10~30mm)多量、炭粒微量                | しまり弱い   | 粘性あり |
| 26 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)含む、炭粒少量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 27 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | 口粒(1~5mm)少量、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 28 | 10YR | 4/3 | にぶい黄褐 | 口粒(1~5mm)少量、ロブ(5~10mm)少量、炭粒少量     | しまりやや強い | 粘性あり |
| 29 | 10YR | 3/3 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)含む                       | しまりやや強い | 粘性あり |
| 30 | 10YR | 4/4 | 褐     | 口粒(1~5mm)多量、炭粒含む                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 31 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)含む、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 32 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)含む、炭粒少量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 33 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)微量、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 34 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm程度)多量、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 35 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~5mm)含む、炭粒微量                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 36 | 10YR | 5/6 | 黄褐    | ロブ(10~30mm)多量、炭粒微量                | しまり強い   | 粘性あり |
| 37 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | ロブ(5mm程度)含む、炭粒少量                  | しまり強い   | 粘性あり |
| 38 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1mm以下)少量                       | しまり弱い   | 粘性あり |
| 39 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | ロブ(5~10mm)多量、炭粒微量                 | しまりやや強い | 粘性あり |
| 40 | 10YR | 5/6 | 黄褐    | ロブ(5~20mm)多量、炭粒微量                 | しまり強い   | 粘性あり |
| 41 | 10YR | 3/4 | 暗褐    | 口粒(1~3mm)含む                       | しまりやや強い | 粘性あり |

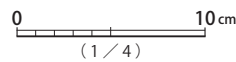
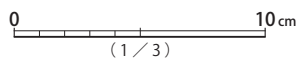
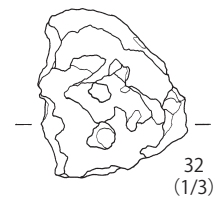
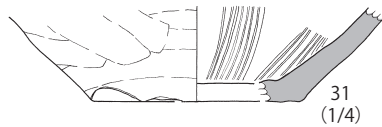
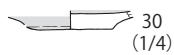
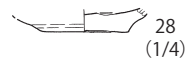
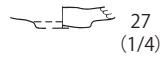
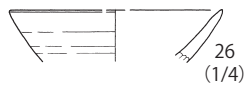
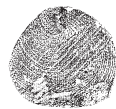
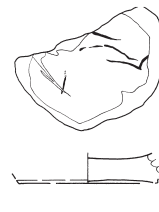
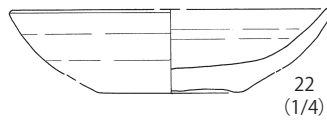


第8図 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 断面図(2)

SD01 (標高約 21.3 ~ 20.8m)

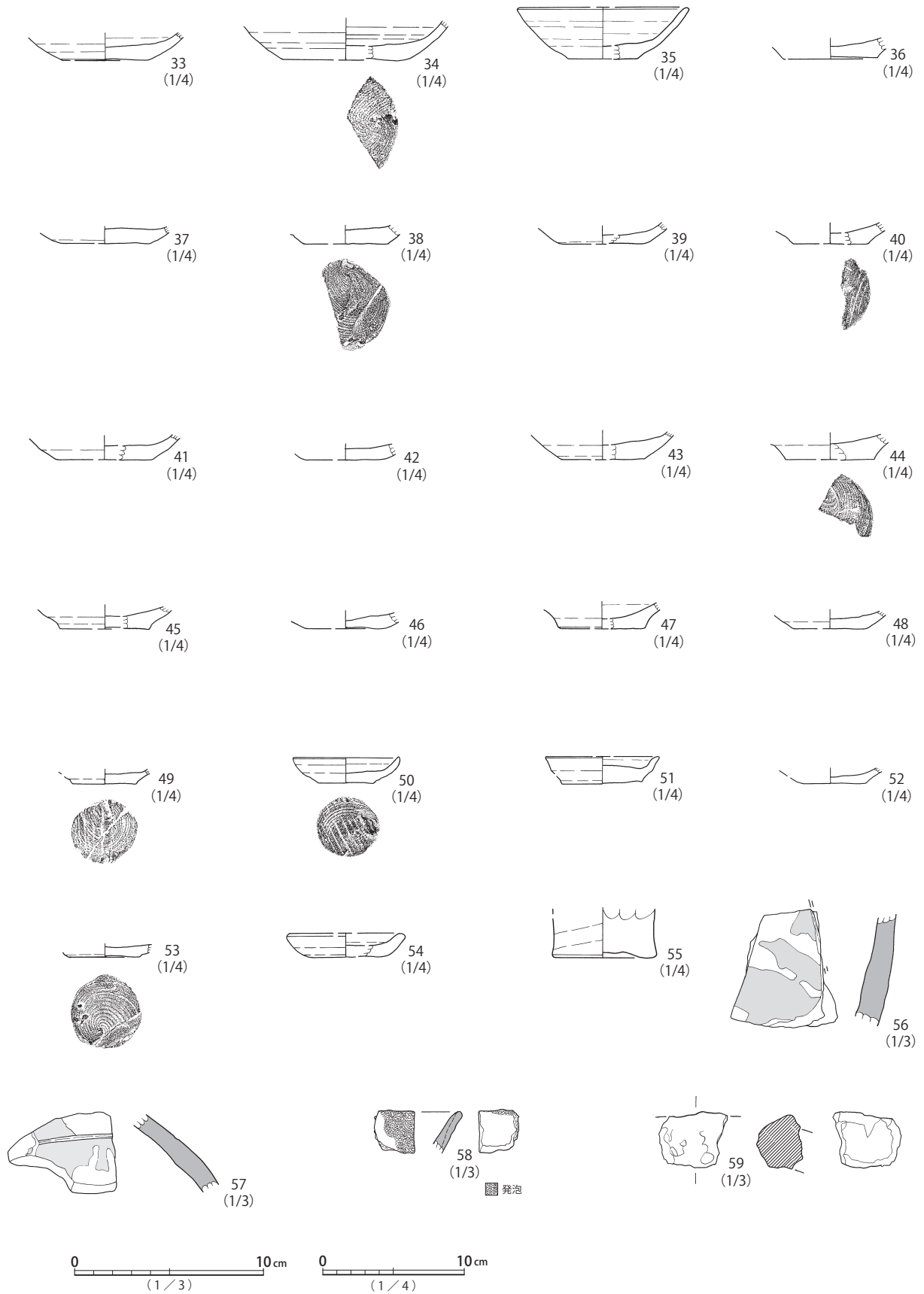


SD01 (標高約 20.8 ~ 20.3m)



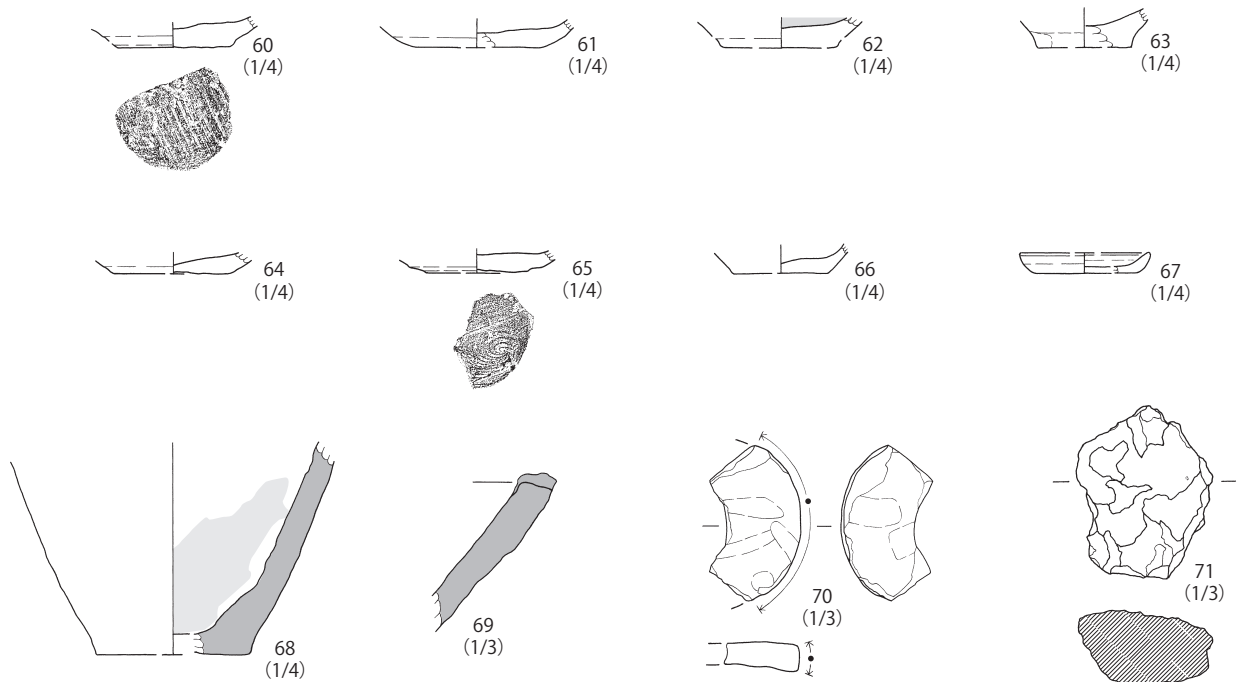
第9図 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(1)

SD01 (標高約 20.3 ~ 19.8m)



第10図 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(2)

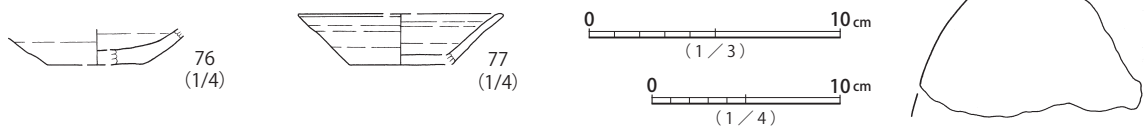
SD01 (標高約 19.8 ~ 19.3m)



SD01 (標高約 19.3m ~ 底面)



SD01 (遺構一括取り上げ遺物)



第11図 郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 遺物実測図(3)

加えて、この層の最下部は標高20.0m 前後にあり、遺物が最も多く出土した深度と同じであることから、堀跡の埋没が早ければ13世紀末頃には開始していた可能性がある。そして、堀及び方形区画の存続期間は13世紀を主体とし、遅くとも12世紀中頃には成立、14世紀後半には機能を失いつつあったと推測され、この期間は第23・24次調査の成果と合致する。

この方形区画の営まれた時期は昨年度の飯香岡遺跡出土のカワラケの帰属時期とも近似しており(川上2024)、市内における中世前期の社会様相を検討する上で重要な資料になると思われる。ただし、今回の調査は堀による方形区画の一部を捉えたにすぎないため、中心施設の様相や溝の南縁、堀・区画の規模の解明、そして隣接する郡本八幡神社との関係性については、今後の調査・整理の進展による資料の蓄積に期待したい。

#### 引用参考文献

- 相京邦彦・伊藤智樹 2004『一般国道297号交通安全施設等整備委託埋蔵文化財調査報告書―市原市郡本遺跡―』千葉県文化財センター調査報告書第491集 (財)千葉県文化財センター
- 小川浩一 1998「郡本遺跡(第3次)」『平成9年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 川上知哉 2024「飯香岡遺跡」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第64集 市原市教育委員会
- 木對和紀 1987『市原市郡本遺跡(第1次)』(財)市原市文化財センター
- 小橋健司 2013『市原市郡本遺跡群(第15次)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第26集 市原市教育委員会
- 櫻井敦史・大村 直・小橋健司・忍澤成視・金子浩昌・永嶋正春・植木真吾・金井慎 2009『上総国分僧寺跡I』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第8集
- 柴垣勇夫・中野晴久・仲野泰裕・安井俊則・青木修 2012『愛知県史別編』窯業3中世・近世常滑系 愛知県
- 田所真 2011「郡本遺跡群 第14次」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集 市原市教育委員会
- 田中清美 1995『市原市郡本遺跡(第2次)』(財)市原市文化財センター
- 財団法人千葉県文化財センター 1993『研究紀要14』
- 鶴岡英一 1999『市原市郡本遺跡(第4次)』財団法人市原市文化財センター調査報告書第61集 (財)市原市文化財センター
- 牧野光隆 2009「郡本遺跡群 第8次」『平成20年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集 市原市教育委員会
- 牧野光隆 2010「郡本遺跡群 第13次」『平成21年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第16集 市原市教育委員会
- 山本信夫 2000『大宰府条坊跡XV―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会

### 3 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)

#### 遺跡の位置

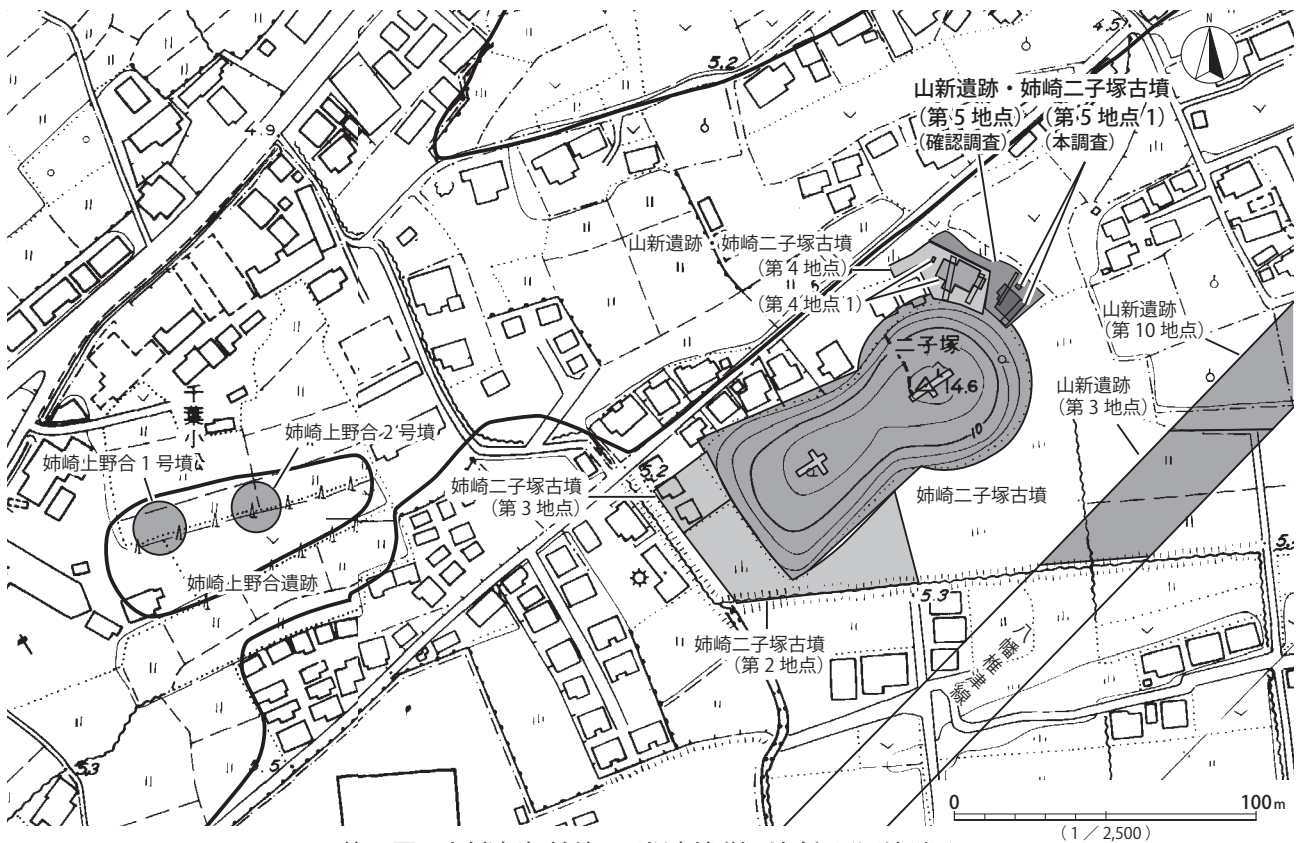
遺跡は東京湾を西に望む旧海岸線沿いに並行する標高6m前後の微高地上に展開しており、姉崎二子塚古墳はその砂丘帯上に位置する全長110m程度の方後円墳である。遺跡の南西700m程の台地上には姉崎天神山古墳や釈迦山古墳があり、これら地域一帯の古墳群は「姉崎古墳群」を形成し、上海上国造に関係すると推定されている。

姉崎二子塚古墳は國學院大學により、墳丘の発掘調査が行われ、直弧文石枕や銀製垂飾付耳飾等が出土している(大場・亀井1951)。その後、平成18年、26年に前方部の南西地点を調査しており、円筒埴輪や古墳時代中期の高杯等が出土している(木對2007、小川2015)。令和4年度には後円部北側の確認・本調査を行っており、周溝覆土から円筒埴輪・木製品等が出土している(川上2024)。

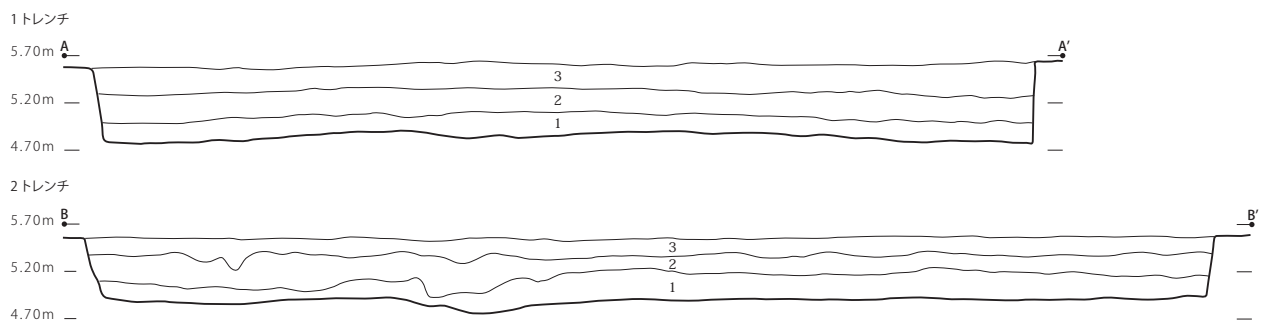
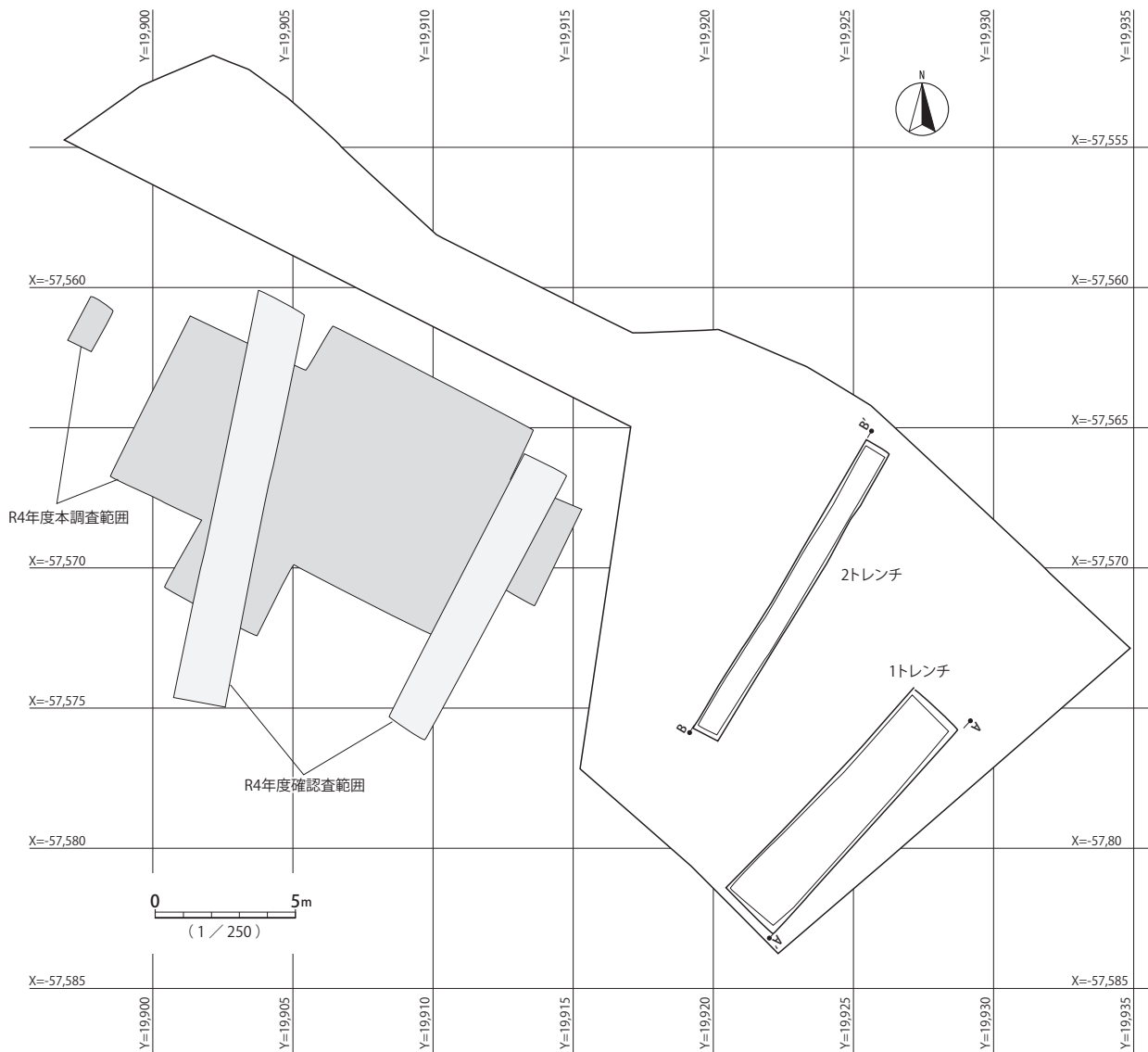
また山新遺跡は今回の調査区南側の都市計画道路八幡椎津線(姉崎工区)の建設に伴い発掘調査が実施され、縄文時代後期～晩期の土器を主体とする包含層や古墳時代前期末～中期前半の集落跡や古墳群が検出された(北見・坂元2018、齊木他2020)。加えて南西に隣接する棗塚遺跡では前述の道路建設に伴って平成8～10年にかけて調査が行われ、中世の掘立柱建物跡や道路、土坑墓群、火葬跡などが確認されたことから、一帯が中世の都市的な場として機能していたと想定されている(北見他2019)。

#### 調査概要

個人住宅の建設に先立ち確認調査を行った。調査区は中期の方後円墳である姉崎二子塚古墳の後



第12図 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 周辺地形図

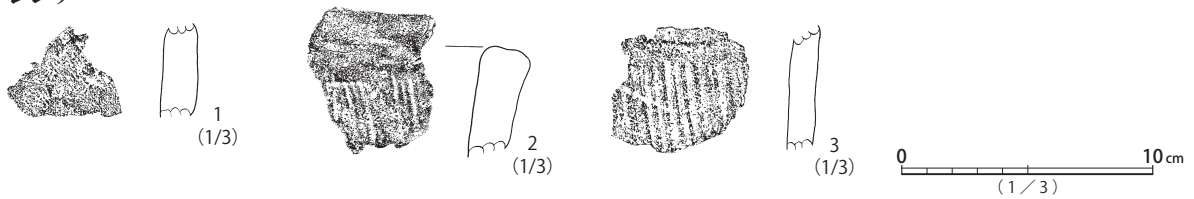


SPA-SPA / SPB-SPB'

- 3 10YR 2/3 黒褐 しまりや強い、粘性あり
- 2 10YR 3/2 黒褐 白色細粒(1mm以下)多い、赤色細粒(1~3mm)少量 しまり強い、粘性あり
- 1 10YR 2/3 黒褐 白色細粒(1mm以下)少量 しまり強い、粘性あり

0 2m (1/80)

1トレンチ



第13図 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 平面図・断面図・遺物実測図

円部北東側に隣接する。

事業範囲面積327.63㎡に対し、2本のトレンチを設定した。各トレンチでの遺構確認面までの深さは、1・2トレンチでそれぞれ約0.8・0.84mである。この遺跡は地下水位が高く、地表面を掘り下げると湧水が生じたため、随時排水を行いながら調査を進めた。調査の結果、両トレンチともに古墳周溝が検出された。事業範囲際までトレンチを設定した(2トレンチ)が、周溝外縁部の立ち上がりは捉えられなかった。周溝の検出面から円筒埴輪が出土した。

### 遺構と遺物

1・2トレンチともに古墳周溝が確認されたが、周溝外縁部の立ち上がりを捕捉することはできなかった。堆積土の状況は西隣の令和4年度調査区と大きな違いはなかった。出土遺物1～3は円筒埴輪である。

### 引用参考文献

- 大場磐雄・亀井正道1951「上総国姉ヶ崎二子塚古墳発掘調査概報」『考古学雑誌』第37巻第3号 日本考古学会
- 小川浩一2015「姉崎二子塚古墳」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第34集 市原市教育委員会
- 川上知哉2024「山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第4地点)(確認調査)」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書64集 市原市教育委員会
- 川上知哉2024「山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第4地点)(本調査)」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書64集 市原市教育委員会
- 北見一弘・坂元秀平2018『市原市山新遺跡・白塚出途遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第42集 市原市教育委員会
- 北見一弘・櫻井敦史・金井慎司・田中義文・坂元秀平・上奈穂美2019『市原市棗塚遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第45集 市原市教育委員会
- 木對和紀2007「姉崎二子塚古墳」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第4集 市原市教育委員会
- 齊木誠・櫻井敦史・浅野健太・山形秀樹・森将志・田中義文・金井慎司・上奈穂美2020『市原市山新遺跡第2地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第50集 市原市教育委員会

## 4 山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点1）

### 調査概要

個人住宅の建設に先立って63.97㎡の範囲で本調査を実施した。湧水の影響で調査区壁が崩落する危険性があり、調査区内に人が入って作業するのは困難であった。そのため、層位毎に重機による掘削を行いながら記録を進め、排土の中から遺物を探すという工程をとった。また湧水により調査区を長時間開放することが出来なかったため、事業範囲を西部・中央部・東部に3分割して土量を調節し、掘削を行った。調査の結果、古墳周溝の覆土より円筒埴輪や軽石製品が検出された。

### 遺構と遺物

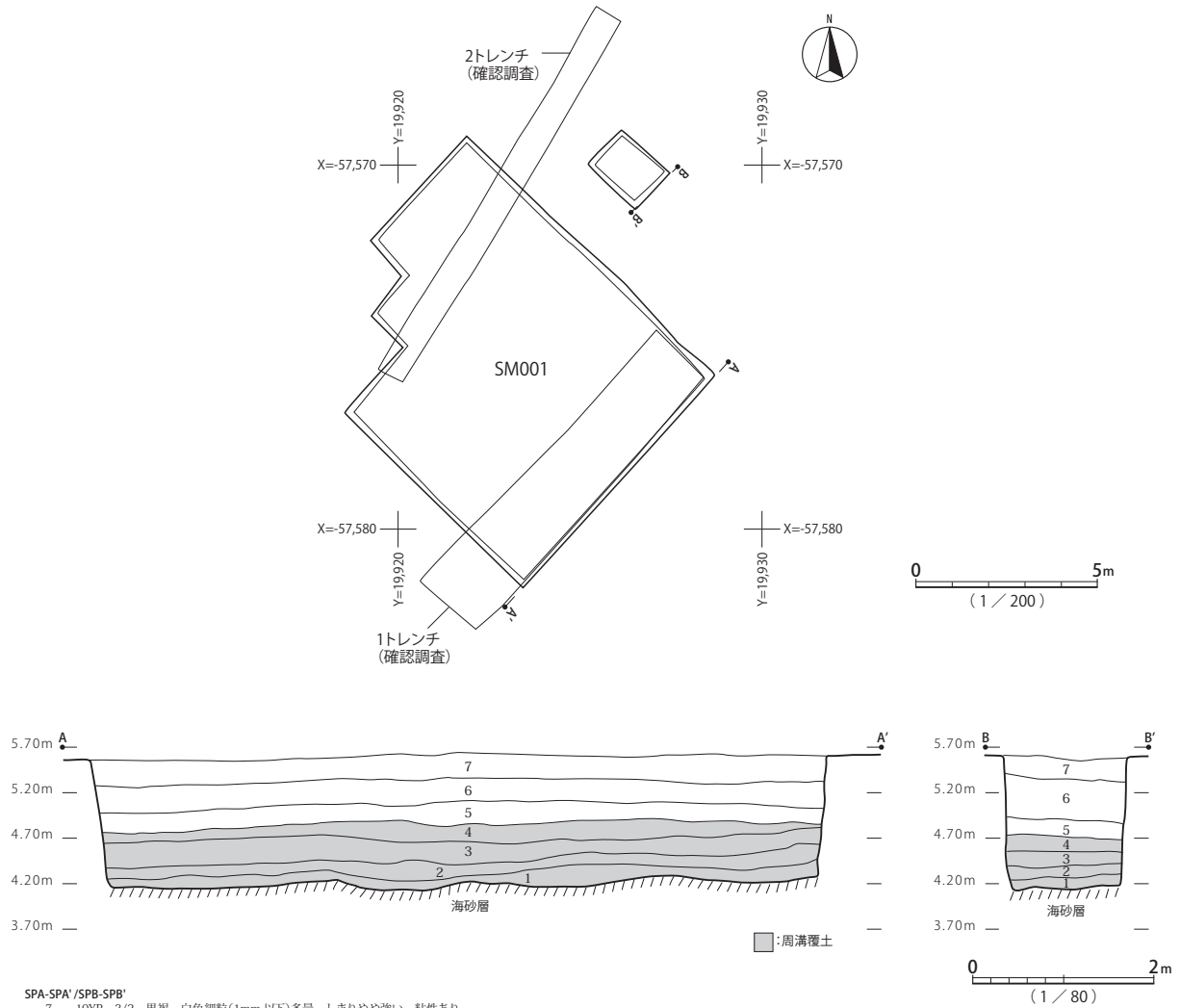
#### SM001

確認調査と同様に、0.8～0.84mの深さから古墳周溝の堆積土（4層）が検出された。SM001をさらに掘り下げると1.26～1.46mの深さで海砂層（地山）が検出された。地山のレベルは南から北に向かって緩やかに深くなる傾向にある。古墳周溝の堆積土層は、令和4年度調査区と大きな違いはなかった。本調査区の1層では植物質の堆積が認められることから、この層は周溝の掘方に草木類が堆積して形成されたとみられる。本調査区の4層上面からは土師器杯（出土遺物1）が出土しているため、周溝が堆積しきるまでに幾分か時間を要した可能性が考えられる。5層は周溝が完全に埋没した直後から堆積している。柱状の自然鉄（ノジュール）が認められ、水生植物が群生していたことが窺える。今回調査では、周溝外縁部の立ち上がりを捕捉することはできなかった。

第14図1は鬼高式の土師器杯である。外面口縁部下にケズリ、内面全域にミガキが認められる。姉崎二子塚古墳の築造時期とは合致しない。2～6は円筒埴輪である。2は口縁部を強いヨコナデで外に突出させ、口縁部下に縦方向のハケメを施す。3～5は外面は縦方向、内面は横方向にハケメを施す。7は軽石製品である。側面の一部および背面に擦痕が認められるが用途は不明である。

### 引用参考文献

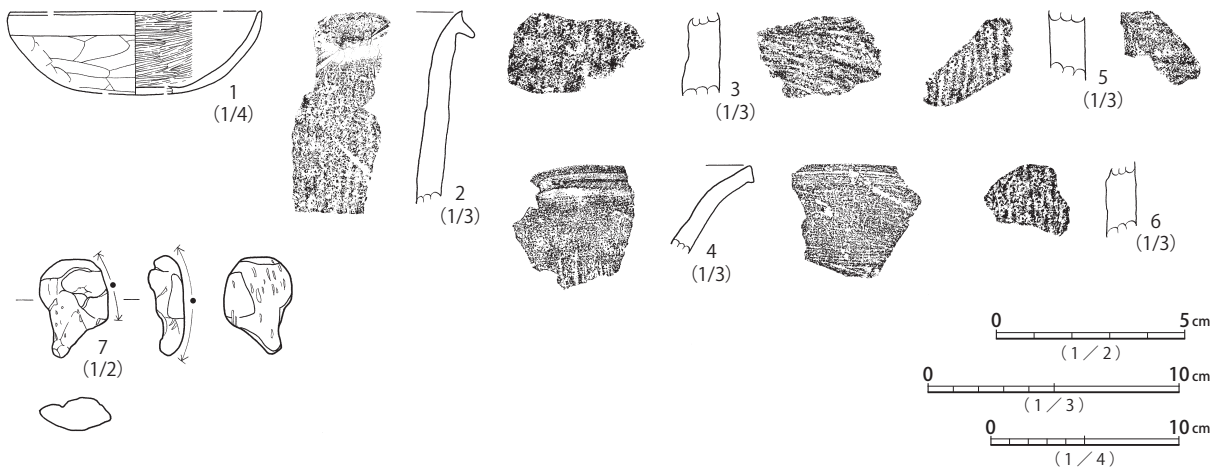
- 小川浩一 2015「姉崎二子塚古墳」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第34集 市原市教育委員会
- 川上知哉 2024「山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第4地点）（確認調査）」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書64集 市原市教育委員会
- 川上知哉 2024「山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第4地点）（本調査）」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書64集 市原市教育委員会
- 北見一弘・坂元秀平 2018『市原市山新遺跡・白塚出途遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第42集 市原市教育委員会
- 北見一弘・櫻井敦史・金井慎司・田中義文・坂元秀平・上奈穂美 2019『市原市棗塚遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第45集 市原市教育委員会
- 木對和紀 2007「姉崎二子塚古墳」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第4集 市原市教育委員会
- 齊木誠・櫻井敦史・浅野健太・山形秀樹・森将志・田中義文・金井慎司・上奈穂美 2020『市原市山新遺跡第2地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第50集 市原市教育委員会



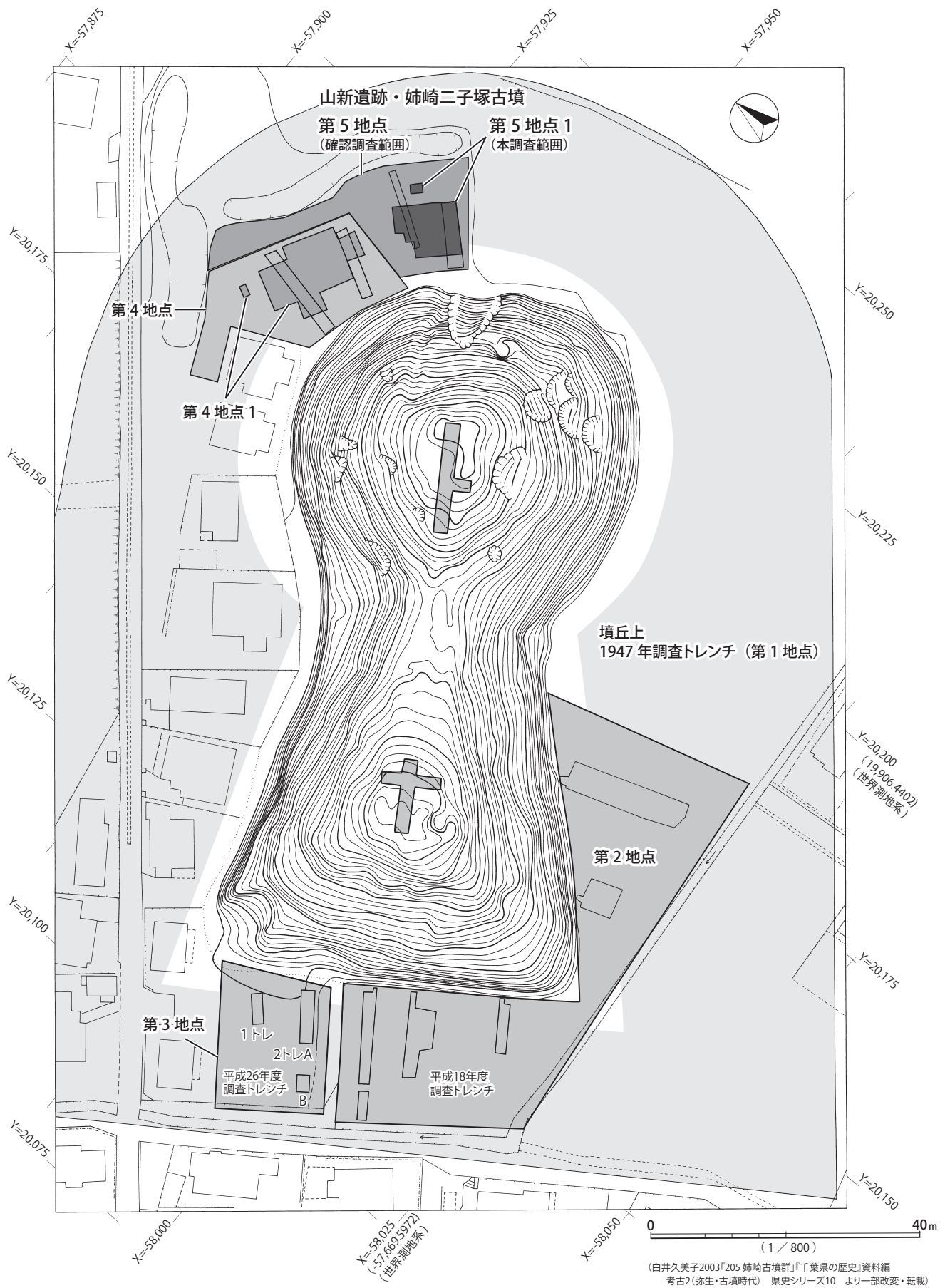
SPA-SPA' / SPB-SPB'

- 7 10YR 3/2 黒褐 白色細粒(1mm以下)多量 しまりやや強い 粘性あり
- 6 10YR 6/6 明黄褐 白色細粒(1mm以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR 4/1 褐灰 白色細粒(1mm以下)砂質粒子多量 しまり弱い 粘性あり 古墳周溝が完全に埋没した直後から堆積した層と思われる。柱状に酸化鉄が入り(ノジュール)、水生植物が群生していたと考えられる。
- 4 10YR 4/2 灰黄褐 砂質粒子多量 しまり弱い 粘性あり
- 3 10YR 2/3 黒褐 しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/2 黒褐 白色細粒(1mm以下)多量、赤色細粒(1~3mm)少量 しまり強い 粘性あり
- 1 10YR 2/3 黒褐 白色細粒(1mm以下)少量 しまり強い 粘性あり
- 海砂層 SPB 3/1 暗青灰 石英・長石・透明粒子多量 しまり弱い 粘性なし

SM001

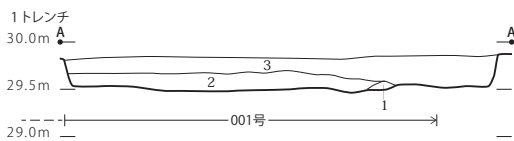
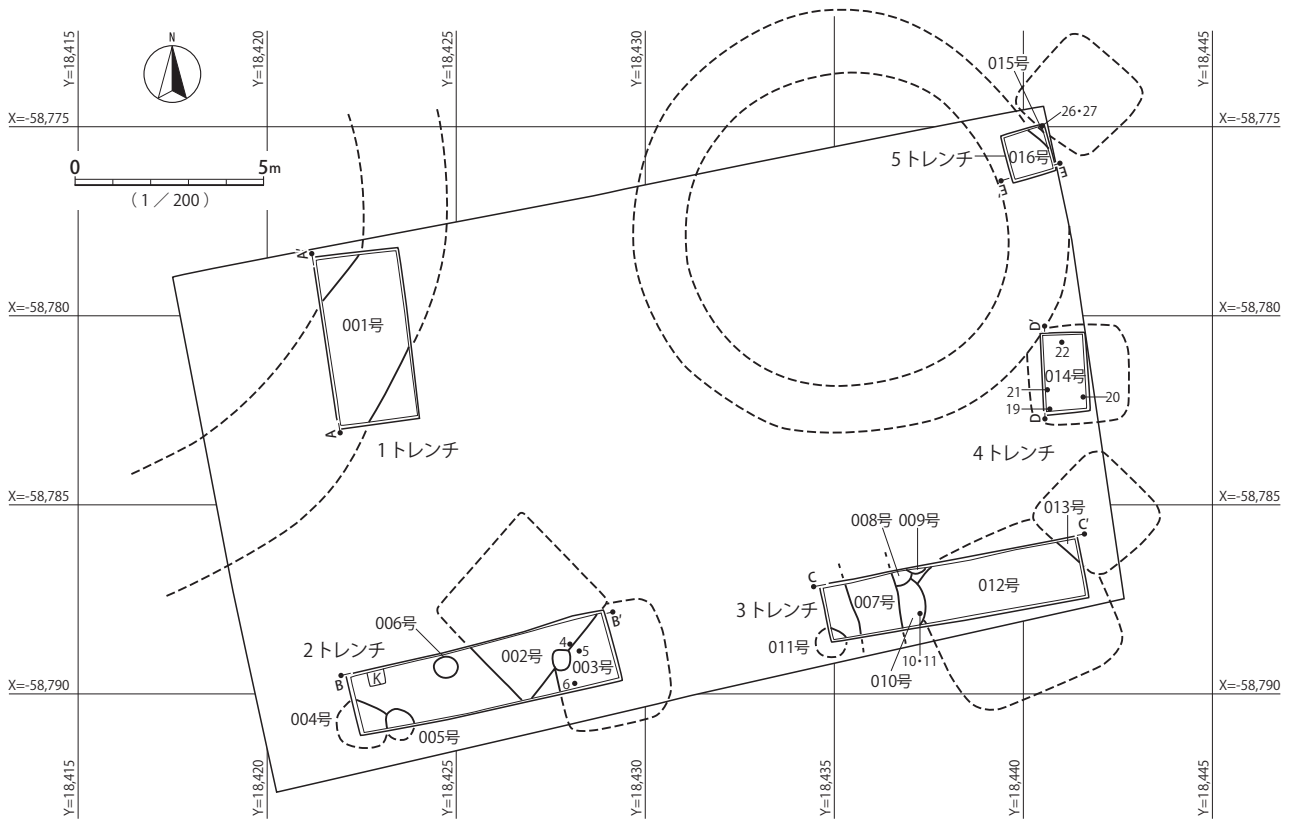


第14図 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1) 平面図・断面図・遺物実測図



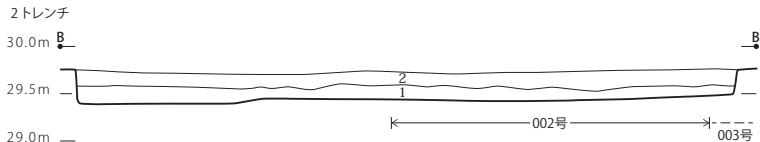
第15図 山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1) 測量図





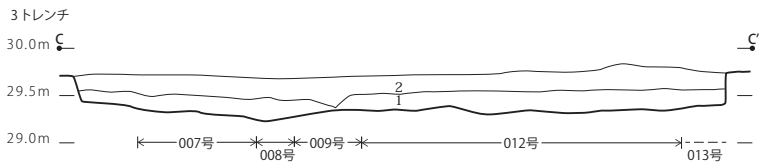
1トレンチ SPA-A'

- 1 10YR 2/1 黒 口粒(1~5mm)少量、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり 001号の覆土と2層の漸移層
- 2 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 001号の覆土を含む
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 現地表土



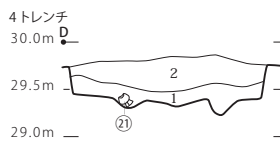
2トレンチ SPB-B'

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~5mm)多量、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 現地表土



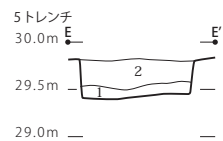
3トレンチ SPC-C'

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/3 暗褐 口粒(1~5mm)多量、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 現地表土



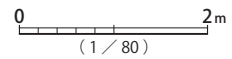
4トレンチ SPD-D'

- 1 10YR 2/1 黒 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり 014号の覆土と2層の漸移層
- 2 10YR 3/1 黒褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり 現地表土、根攪乱の影響顕著

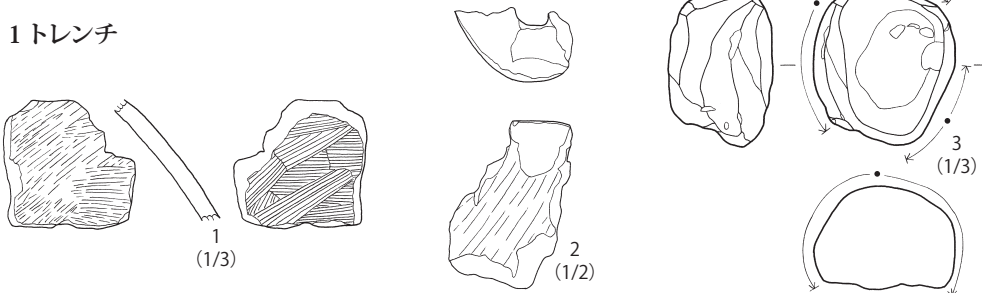


5トレンチ SPE-E'

- 1 10YR 2/1 黒 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり 016号の覆土と2層の漸移層
- 2 10YR 3/1 黒褐 口粒(1~5mm)含む、焼粒・炭粒(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり 現地表土、根攪乱の影響顕著



1トレンチ

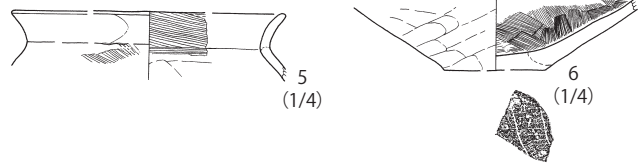


第17図 五霊台遺跡(第4地点) 平面図・断面図・遺物実測図(1)

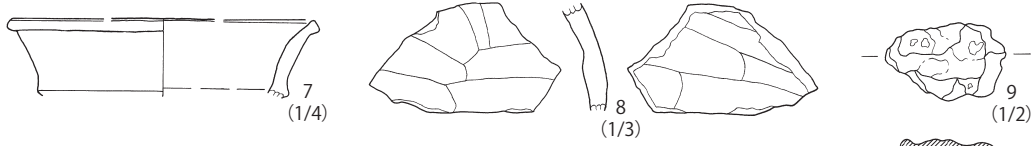
002号



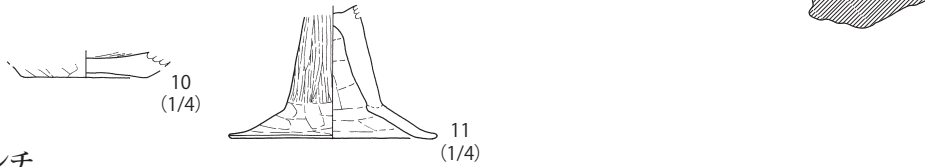
003号



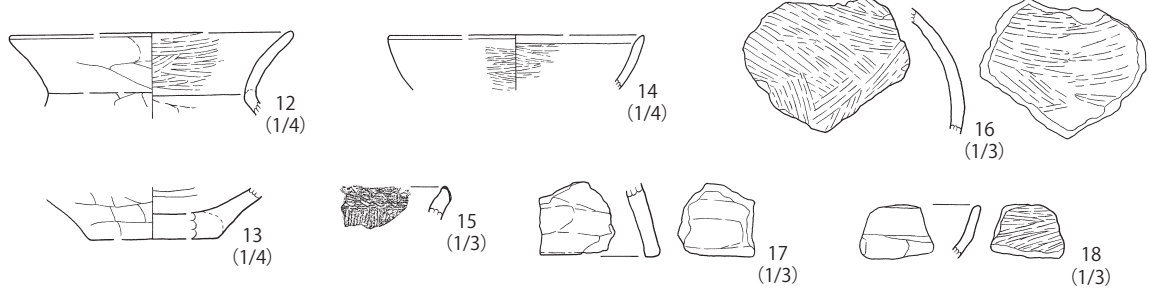
2トレンチ



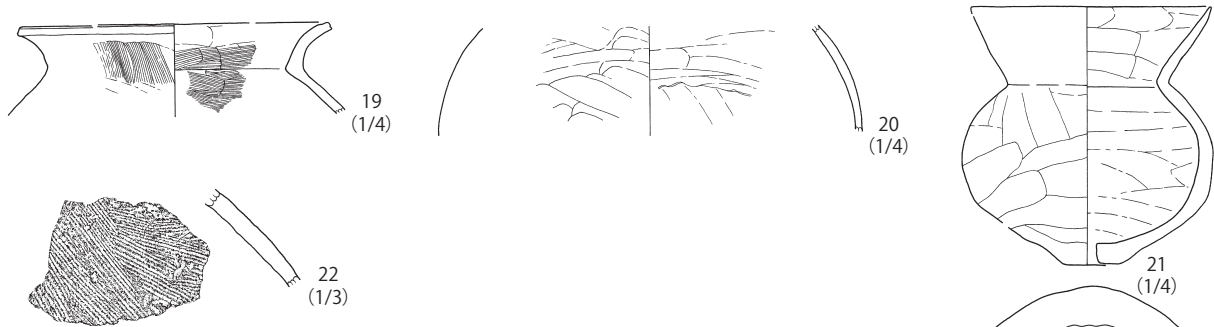
010号



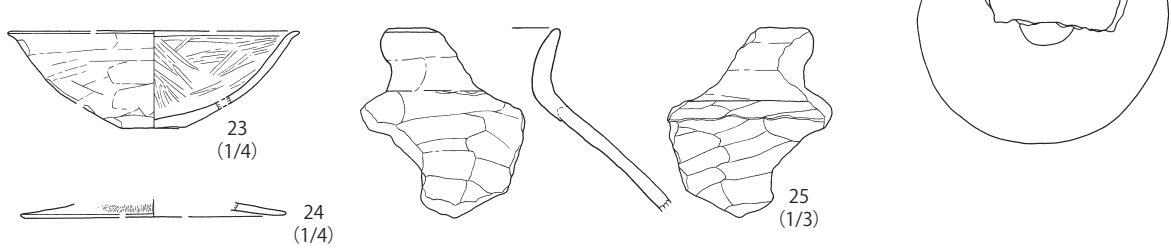
3トレンチ



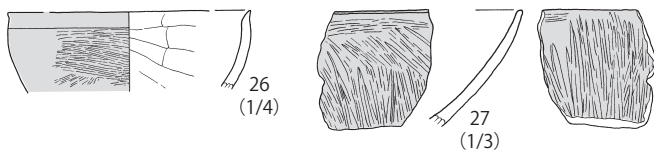
014号



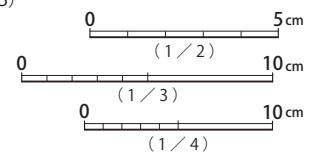
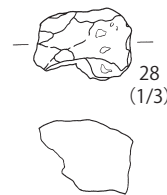
4トレンチ



015号



5トレンチ



第18図 五霊台遺跡(第4地点) 遺物実測図(2)

## 調査概要

個人住宅の建設に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積297㎡に対し、5本のトレンチを設定した。浄化槽埋設予定範囲に設定した1トレンチにおいて、遺構の所在が明らかになったため、確認調査後、浄化槽埋設範囲のみ本調査を実施した。

各トレンチでの遺構確認面までの深さは、0.28～0.5mと浅く、遺構の残存状況は良好だった。

## 遺構と遺物

001号は古墳時代中期の円墳周溝である。検出面での溝幅は2.7mで、周溝外周の直径は推定で22m前後である。第17図1～3は1トレンチ出土遺物で、1は古墳時代前期草刈式の壺、2は古墳時代の土錘、3は時期不明の磨石である。

002号は竪穴建物跡である。時期決定が可能な出土遺物はないが、南東側にカマドを持ち、003号(草刈式の竪穴建物跡)を切るため、奈良・平安時代の所産と思われる。第18図4は古墳時代前期草刈式の甕である。

003号は古墳時代前期の竪穴建物跡である。5・6は草刈式の甕である。

004・005号は古墳時代前期の土坑と思われる。非掲載だが、草刈式の土師器(壺・甕)が小片で出土している。

006号は土坑だが出土遺物が無く、時期不明である。7～9は2トレンチ出土で、7は平安時代の土師器甕と思われ、8は古墳時代中期和泉式の甕、9は鉄滓である。

007号は溝だが時期決定が可能な出土遺物が無く、時期不明である。008・010号を切る。

008・009号は土坑だが出土遺物が無く、時期不明である。009号が008号を切る。

010号は古墳時代前期の土坑である。第18図10は草刈式の壺・甕類、11は草刈式の高杯である。

011号は土坑だが出土遺物が無く、時期不明である。

012号は古墳時代前期の竪穴建物跡である。非掲載だが、草刈式の土師器(壺・甕)が小片で出土している。

013号は出土遺物はないが、012号を切ることと、遺構の形状から古墳時代前期の竪穴建物跡と思われる。第18図12～18は3トレンチ出土で、12は古墳時代中期和泉式の甕、13は草刈式～和泉式の甕、14・18は古墳時代終末期の土師器杯、15は弥生時代終末期中台式の甕、16は草刈式の壺、17は草刈式の台付甕の底部である。

014号は古墳時代前期の竪穴建物跡である。遺構プランの全貌は不明だが、016号(古墳時代中期の円墳周溝)と同時存在は不可能と思われる。第18図21は和泉式の小型壺で、焼成後に底部穿孔を施している。4トレンチ1層から出土しているため014号の出土としたが、1層は根による攪乱が顕著なため、016号の墳丘部に供献されていたものが二次的に堆積した可能性がある。19・22は草刈式の甕、20は和泉式の甕である。23～25は4トレンチ出土で、23は草刈式の杯、24は草刈式の高杯、25は和泉式の甕である。

015号は古墳時代前期の竪穴建物跡である。第18図26は草刈式の杯で外面に赤彩を施す。27は草刈式の高杯で内外面に赤彩を施す。

016号は遺構プランの全貌は不明だが、簡易ボーリングで地山の状況を確認したところ、横断面が急斜しており、竪穴建物跡とは異なる様相を呈することから円墳周溝と想定した。3・4トレンチで

周溝が検出されなかったことを考慮すると直径11m前後の規模と思われる。非掲載だが016号から草刈式～和泉式の土師器(壺・甕)が出土している。第18図28は5トレンチ出土で、羽口である。

#### 引用参考文献

- 小川浩一 2016「椎津向原遺跡第3地点」『平成27年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第37集 市原市教育委員会
- 小高春雄 1999「椎津城跡」『市原の城』
- 近藤 敏 2016「椎津城跡」『平成27年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第37集 市原市教育委員会
- 櫻井敦史 1997「椎津尾崎遺跡」『市原市文化財センター年報(平成6年度)』(財)市原市文化財センター
- 高橋康男 1998『市原市五霊台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第64集 (財)市原市文化財センター
- 中野喬介 2019「五霊台遺跡(第3地点)・椎津城跡」『平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第46集 市原市教育委員会
- 牧野光隆 2001「椎津正坊山遺跡」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第14集 市原市教育委員会

## 6 五霊台遺跡(第4地点1)

### 調査概要

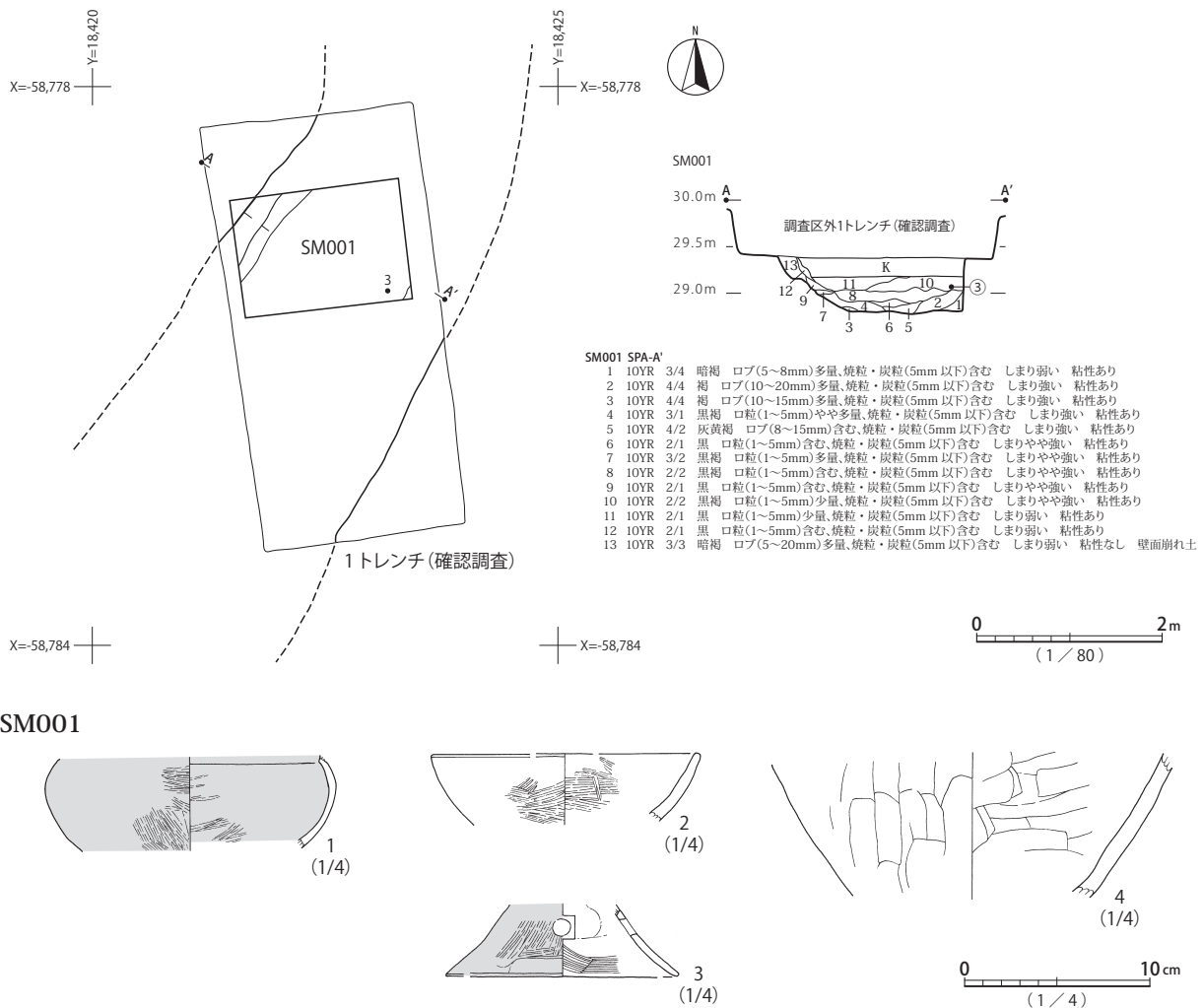
浄化槽埋設予定範囲を含めて設定した確認調査トレンチ(1トレンチ)において、遺構の所在が明らかになったため、確認調査後、浄化槽埋設範囲のみ本調査を実施した。

### 遺構と遺物

#### SM001

古墳時代中期の円墳周溝である。検出面での溝幅は2.7mで、周溝外周の直径は推定で22m前後である。検出面から掘方までの深度は0.62mである。第19図1は草刈式の小型丸底系鉢で内外面に赤彩を施す。2は草刈式の高杯、3は草刈式の高杯で外面に赤彩を施す。4は和泉式の甕である。

今回の調査成果により、第1地点で確認されていた古墳時代前期の居住域と中期の円墳周溝群がさらに北側にも展開していることが分かった。第3地点からも椎津城跡に関連して行われた地山整形土の中から円筒埴輪片が出土しており、外郭古墳の推定される椎津城跡主郭部との中間地帯である本調査区より北側にも、古墳時代の活動痕跡が広がっていた可能性は高いと思われる。



第19図 五霊台遺跡(第4地点1) 平面図・断面図・遺物実測図

第2表 出土遺物観察表

【凡例】横ナデ：ロクロ使用 横方向ナデ：ロクロ未使用 寸法の( )は現存値、?は推定復元値を示す。

郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡御推定地 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周 遺 存	寸法 (cm)			胎土	色調		特徴		僧寺 区分	備考			
										口径	器高	底径		最大幅	重量 (g)	焼成	外面			内面	外面	内面
4	5	1	1	-	セ6161トレ 1一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/2	-	(1.2)	6.4?	-	49.3	良好	雲母	10YR 6/3 にふい黄橙	2.5Y 4/1 黄灰	底部回転系切り痕ナ デ消し	ロクロ整形	XIII	
4	5	2	1	-	セ6161トレ 1一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部の一 部	1/2	-	(1.2)	6.0?	-	38.2	普通	海綿骨針・雲母 黒色細粒	10YR 6/3 にふい黄橙	10YR 6/6	底部回転系切り痕ナ デ消し	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形	XIII	
4	5	3	1	-	セ6161トレ 4一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/8	-	(1.4)	5.4?	-	12.3	普通	海綿骨針・雲母・ 黒色細粒	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6	底部回転系切り痕値 かにナデ消し	ロクロ整形	XIII	
4	5	4	1	-	セ6161トレ 2一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.3)	7.0?	-	18.0	普通	海綿骨針・雲母	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4	底部回転系切り痕ナ デ消し、胴部下 部横ナデ調整	見込み横方向ナデ	XIII~ XIV	
4	5	5	1	-	セ6161トレ 2一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/5	-	(2.5)	5.6?	-	17.9	普通	海綿骨針・白色細 粒	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6	底部回転系切り痕ナ デ消し、胴部横ナデ 調整	見込み横方向ナデ上 げ	XII	
4	5	6	1	-	セ6161トレ 1一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部	全周	-	(0.9)	4.2	-	21.1	普通	海綿骨針・白色細 粒	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/6	底部回転系切り痕ナ デ消し	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形	XII	
4	5	7	1	-	セ6161トレ 4一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	3/4	-	(0.7)	4.8?	-	14.4	普通	海綿骨針・赤色細 粒	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4	底部回転系切り痕	見込み横方向ナデ	XIII	
4	5	8	1	-	セ6161トレ 2一拵	中世 青磁	皿	口縁部の一 部	小片	-	(2.4)	-	-	3.0	良好	黒色細粒	10Y 5/2 オリーブ灰	10Y 5/2	薄く胎軸、左回転方 向の主貫入	薄く胎軸、左回転方 向の主貫入		皿I類(12世紀 中頃~12世紀後 半)龍泉窯産

郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡御推定地 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周 遺 存	寸法 (cm)			胎土	重量 (g)	焼成	色調	特徴		僧寺 区分	備考		
										口径	器高	底径					最大幅	外面			内面	外面
6	5	1	-	SD01	セ6162トレ 7一拵・8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	4/5	-	(1.3)	6.8?	-	32.5	普通	7.5YR 6/6 橙	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4	底部回転系切り、底 部無調整	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形	XIII	右回転、製造粗 雑
6	5	2	-	SD01	セ6162トレ 8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.4)	6.4?	-	48.0	普通	10YR 5/3 にふい黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2	底部回転系切り後に ナデ消し、底部突出 部ナデ調整	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形、内面黒 色	XII~ XIII	
6	5	3	-	SD01	セ6162トレ 4一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/2	-	(1.1)	5.8?	-	30.5	普通	10YR 6/4 にふい黄褐	10YR 5/3 にふい黄褐	10YR 5/3	底部回転系切り痕を ナデ消し、網代状庄 痕、底部中央に窪み 色	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形、内面黒 色	XIII	
6	5	4	-	SD01	セ6162トレ 8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(2.5)	6.0?	-	50.0	普通	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/6	10YR 7/6	底部回転系切り後に ナデ調整、胴部下 部ナデ調整	見込み横方向ナデ上 げ、ロクロ整形	XIII~ XIV	右回転
6	6	5	-	SD01	セ6162トレ 8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	口縁部・ 胴部の一 部	小片	-	(3.9)	-	-	19.0	普通	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	ロクロ整形	ロクロ整形	X~XI	
6	6	6	-	SD01	セ6162トレ 6一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/2	-	(1.45)	5.8?	-	34.3	普通	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4	10YR 6/4	底部回転系切り、底 部突出部をナデ調整	見込み横方向ナデ、 ロクロ整形	XIII	右回転
6	6	7	-	SD01	セ6162トレ 8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/5	-	(1.4)	5.7?	-	17.5	普通	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/6	10YR 6/6	底部回転系切り後に 僅かにナデ消し	見込み横方向ナデ	XIII	
6	6	8	-	SD01	セ6162トレ 8一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/8	-	(1.0)	5.8?	-	30.5	普通	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/6	10YR 7/6	底部回転系切り、底 部突出部ナデ調整	見込み横方向ナデ上 げ、ロクロ整形	XIII	右回転

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)			重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備寺 区分	備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		
6	6	9	-	SD01	セ616.2トレ 6一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/4	(1.4)	5.8?	-	普通	海綿骨針・赤色細 粒	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙	底部回転系切り痕を 一部をナゲ消し	ロクロ整形	XIII		
6	6	10	-	SD01	セ616.2トレ 4一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/4	(1.2)	6.4?	-	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 7/4 にふい黄橙	10YR 7/4 にふい黄橙	底部回転系切り痕を 一部をナゲ消し、底 部突出をナゲ消し	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XI	右回転	
6	6	11	-	SD01	セ616.2トレ 8一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/8	(2.0)	8.0?	-	普通	海綿骨針・雲母・ 砂粒	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/6 明黄褐	底部回転系切り、僅 かに網代状狂痕	見込み横方向ナゲ	XIII		
6	6	12	-	SD01	セ616.2トレ 4一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部の一 部	小片	(1.2)	-	-	普通	海綿骨針・雲母	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4 にふい黄橙	底部系切り無調整を ナゲ消し、底面に線 刻あり	ロクロ整形	XIII		
6	6	13	-	SD01	セ616.2トレ 8一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	口縁部・ 胸部の一 部	小片	(2.5)	-	-	普通	海綿骨針・雲母	10YR 6/6 明黄褐	10YR 5/6 黄褐	ロクロ整形	XIII			
6	6	14	-	SD01	セ616.2トレ 2	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/5	(2.8)	6.8?	-	普通	海綿骨針・黒色細 粒	7.5YR 4/3 褐	10YR 4/3 にふい褐	底部突出無調整、ロ クロ整形	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XII	右回転	
6	6	15	-	SD01	セ616.2トレ 9一拵	中世 在土器 カワラケ	小型杯	底部・胸 部の一部	1/4	(1.35)	4.7?	-	普通	雲母・粗石	10YR 7/4 にふい黄橙	10YR 7/4 にふい黄橙	底部回転系切り	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XII~ XIII	白焼き風	
6	6	16	-	SD01	セ616.2トレ 7一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部の一部	2/5	(0.9)	5.5?	-	普通	海綿骨針・雲母	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り後に ナゲ調整	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XIII~ XIV		
6	6	17	-	SD01	セ616.2トレ 8一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部の一部	1/3	(2.6)	4.8?	-	普通	海綿骨針・雲母	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/6 明黄褐	底部ナゲ調整、胴部 下部方向にナゲ調 整	見込み横方向ナゲ上 げ、ロクロ整形	XII~ XIII		
6	6	18	-	SD01	セ616.2トレ 10一拵	中世 在土器 カワラケ	柱状高 台土器	高台部	全周	(2.1)	6.2	-	普通	海綿骨針・雲母・ 赤色細粒(シヤ モット状)	10YR 7/4 にふい黄橙	10YR 7/4 にふい黄橙	底部回転系切り後に ナゲ消し、高台部横 ナゲ調整	見込み横方向ナゲ 磨耗し不明瞭	XI~ XII		
6	6	19	-	SD01	セ616.2トレ 3	中世 在土器 カワラケ	柱状高 台土器	高台部	全周	(2.7)	5.9	-	普通	海綿骨針・雲母・ 黒色細粒	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4 にふい黄橙	底部回転系切り、高 台部横ナゲ調整	見込み横方向ナゲ	XI~ XII	右回転	
6	6	20	-	SD01	セ616.2トレ 9一拵	中世白磁	皿	口縁部	小片	(1.05)	-	-	普通	黒色細粒	7.5Y 8/2 灰白	7.5Y 8/1 灰白	薄く施釉(灰白)、口 縁部に輪花	ロクロ整形(灰白)			皿Y類(11世紀 後半~12世紀 前半)広東系
6	6	21	-	SD01	セ616.2トレ 8一拵	中世白磁	皿	胸部の一 部	小片	(0.95)	-	-	良好	黒色細粒	7.5Y 7/2 灰白	7.5Y 7/1 灰白	施釉(灰白)、左回 転方向に主貫入	施釉(灰白)、左回 転方向に主貫入			皿Y類(11世紀 後半~12世紀 前半)

郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡御推定地 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)			重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備寺 区分	備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		
9	6	1	-	SD01	セ619.SD001 17一拵	土師器	杯	胸部の一 部	小片	(2.8)	-	-	普通	黒色細粒、海綿骨 針	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 1.7/1 黒	へラケズリ	内面黒色、ミガキ調 整後に暗文			古墳時代終末期
9	6	2	-	SD01	セ619.SD001 B一拵	須恵器	盤類	口縁部・ 胸部の一 部	小片	(1.2)	19.6?	-	良好	白色細粒	5Y 6/2 灰オリーブ	5Y 6/2 灰オリーブ	ロクロ整形・胴部中 央から 1/2 回転ヘラ ケズリ	ロクロ整形			永田・不入齋産 (I~II期)
9	6	3	-	SD01	セ619.SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	ほぼ 全周	(1.9)	6.2?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/6 明黄褐	底部回転系切り痕一 部ナゲ消し、底部に 線刻か(外周に直線 状)	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XIII	右回転	
9	6	4	-	SD01	セ619.SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	2/5	(1.05)	6.6?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/4 にふい黄橙	10YR 6/4 にふい黄橙	底部回転系切り痕一 部ナゲ消し	見込み横方向ナゲ、 ロクロ整形	XIII		

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トク 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)			重量 (g)	構成	胎土	色調		特徴		佛寺 区分	備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		
9	6	5	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/3	-	(1.4)	7.6?	-	普通	海綿骨針・黒色 細粒・赤色細粒 (シヤモット状)	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6	底部回転糸切り痕一 部ナデ消し	見込み縦方向ナデ、 ロクロ整形	XIII	右回転
9	6	6	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/2	-	(1.0)	6.2?	-	普通	輝石・砂粒	5YR 6/8 橙	5YR 6/8	底部回転糸切り 痕	見込みの外周を強 めにナデ調整し中 央が若干出張る	XIII	右回転
9	6	7	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胸 部の一部	1/5	-	(2.6)	6.0?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/4	底部回転糸切り痕僅 かにナデ消し	見込み縦方向ナデ、 ロクロ整形	XIII	
9	6	8	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	小型杯	底部・胸 部の一部	1/4	-	(1.35)	5.2?	-	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/4	底部回転糸切り痕ナ デ消し	ロクロ整形	XIII	
9	6	9	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部の一部	全周	-	(1.2)	5.5	-	普通	雲母・赤色細粒 (シヤモット状)	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/6	底部静止糸切り痕	ロクロ整形	XII	
9	6	10	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部・口縁 部の一部	1/3	8.2?	1.7	5.2?	8.4?	良好	雲母・海綿骨針・黒雲母	5YR 5/6 明赤褐	5YR 4/6 赤褐	底部回転糸切り痕ナ デ消し	ロクロ整形	XII~ XIII	
9	6	11	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部の一部	1/5	-	(1.6)	5.2?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/4	底部回転糸切り痕	ロクロ整形	XII~ XIII	右回転
9	6	12	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部の一部	1/6	-	(1.0)	4.4?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/6	底部回転糸切り痕	ロクロ整形	XII~ XIII	
9	6	13	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胸 部・口縁 部の一部	小片	7.3?	1.5	4.0?	7.4?	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/6	大部分欠損により不 明瞭	摩耗が激しく不明 瞭	XII~ XIII	
9	5	14	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世 在土器 カワラケ	柱状高 台土器	高台部	ほぼ 全周	-	(2.0)	4.8	-	普通	海綿骨針・白色 細粒・赤色細粒 (シヤモット状)	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 6/6	底部回転糸切り痕、 高台部ナデ調整	ロクロ整形	XII~ XIII	
9	6	15	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世不明 土器	容器類	口縁部・ 胸部の一部	小片	15.8?	(2.7)	-	16.0?	普通	黒色細粒・石英	10YR 5/4 にぶい黄褐	10YR 6/4 にぶい黄橙	胸部ナデ調整後に一 部ミカキ、口縁部頂 ナデにより水平に調 整、胸部下部にヌス 痕あり	ナデ調整		
9	5	16	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世陶器	搦鉢	底部・胸 部の一部	1/5	-	(2.15)	10.0?	-	粗い	砂粒多く混じる	10YR 5/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰	ナデ調整	ナデ調整		常滑産
9	6	17	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世陶器	広口壺	口縁部の 一部	小片	-	(1.8)	-	-	良好	黒色細粒・白色細 粒	(地肌) 5Y 6/1 灰 (釉) 7.5Y 6/3 7.5Y 6/3 オリーブ黄 ~ 10YR 4/4 褐	5Y 6/1 灰 (釉) 7.5Y 6/3 オリーブ黄 ~ 10YR 4/4 褐	施釉	施釉		常滑産(3~ 4期:12世紀 末~13世紀初 頭)
9	6	18	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世土器	羽釜	口縁部・ 胸部の一部	小片	-	(1.3)	-	-	良好	黒色細粒	10YR 4/3 にぶい黄褐	10YR 7/4 にぶい黄橙	羽部下面にヌス付着	ナデ調整		南伊勢系
9	6	19	-	SD01	セ619 SD001 6	中世青磁	小椀	口縁部・ 胸部	小片	-	(2.3)	-	-	良好	黒色細粒	7.5GY 6/1 緑灰	7.5GY 6/1 緑灰	厚く施釉	厚く施釉		小椀皿類(13 世紀中頃~14 世紀初頭前後) 龍泉窯産
9	6	20	-	SD01	セ619 SD001 B一拵	中世白磁	玉縁椀	口縁部・ 胸部の一部	小片	-	(1.2)	-	-	良好	黄褐色細粒	7.5Y 7/2 灰白	5Y 7/2 灰白	施釉(灰白)、口縁 に玉縁、左回転方向 に玉縁入	施釉(灰白)、左回 転方向に玉縁入		椀皿類(11世 紀後半~12世 紀前半) 福建省 産
9	6	21	-	SD01	セ619 SD001 17一拵	中世白磁	皿	底部・胸 部の一部	1/6	-	(0.5)	3.6?	-	良好	黒色細粒	10CY 8/1 明緑灰	7.5CY 8/1 明緑灰	底面以外に施釉(明 緑灰)、底面に墨書? (直線状)	施釉(明緑灰)		皿皿類(11世 紀後半~12世 紀前半)

挿入 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)			重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備考	
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		内面
9	5	22	-	SD01	セ619 SD001 C一拵×2・5 ×4	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部・口縁 部の一部	底部 4/5 口縁部 1/10	-	4.4	7.0	17.0?	194.7	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 7/2 にぶい黄緑	10YR 7/6 明黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII~ XIV	右回転
9	5	23	-	SD01	セ619 SD001 12	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	全周	-	(2.4)	5.6?	-	82.9	普通	雲母・海綿骨針	7.5YR 7/8 黄緑	7.5YR 6/6 黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
9	6	24	-	SD01	セ619 SD001 C一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部	1/2	-	(1.6)	7.0?	-	63.1	普通	雲母・海綿骨針・ 赤色細粒(シヤ モット状)	7.5YR 6/6 黄緑	7.5YR 6/6 黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形 底面墨書	XII	右回転
9	6	25	-	SD01	セ619 SD001 C一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/2	-	(1.9)	5.8?	-	42.0	普通	海綿骨針・白色細 粒	10YR 7/4 にぶい黄緑	10YR 7/4 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
9	6	26	-	SD01	セ619 SD001 C一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	口縁部・ 胴部の一 部	小片	-	(2.7)	-	-	11.6	普通	海綿骨針・白色細 粒	7.5YR 5/6 明緑	7.5YR 5/6 明緑	ロクロ整形	XII~ XIII	右回転
9	6	27	-	SD01	セ619 SD001 C一拵	中世 在土器 カアラケ	小型杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.1)	3.0?	-	16.9	普通	白色細粒・海綿骨 針	10YR 6/4 にぶい黄緑	10YR 6/4 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
9	6	28	-	SD01	セ619 SD001 18一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(1.3)	4.8	-	34.9	普通	海綿骨針・白色細 粒	10YR 6/4 にぶい黄緑	10YR 6/6 明黄緑	ロクロ整形	XII~ XIII	右回転
9	6	29	-	SD01	セ619 SD001 18一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(1.0)	3.8	-	20.8	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/4 にぶい黄緑	5YR 5/6 明赤褐	ロクロ整形	XII~ XIII	右回転
9	6	30	-	SD01	セ619 SD001 C一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(0.9)	4.4	-	26.2	普通	赤色細粒(シヤ モット状)・雲母	5YR 6/6 黄緑	5YR 6/6 黄緑	ロクロ整形・赤彩	XI	右回転
9	6	31	-	SD01	セ619 SD001 9	中世陶器	擂鉢	底部・胴 部の一部	1/5	-	(4.8)	11.2?	-	178.1	良好	褐色細粒	5Y 3/2 オリーブ黒	5YR 4/2 灰褐	ナズ調整		備前産
10	6	33	-	SD01	セ619 SD001 19一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	4/5	-	(1.9)	6.0	-	91.2	良好	赤色細粒(シヤ モット状)	10YR 6/6 明黄緑	7.5YR 6/6 黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形 備かに スス痕跡あり	XIII~ XIV	右明皿用か
10	6	34	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(2.8)	9.0?	-	57.4	普通	赤色細粒(シヤ モット状)・海綿 骨針	10YR 7/6 明黄緑	10YR 7/6 明黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII~ XIV	右回転
10	5	35	-	SD01	セ619 SD001 19一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	3.6	4.8?	12.0?	46.0	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	7.5YR 6/6 黄緑	7.5YR 6/6 黄緑	ロクロ整形	XIII	右回転
10	6	36	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部	1/2	-	(1.5)	6.6	-	48.7	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 7/4 にぶい黄緑	10YR 7/4 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
10	7	37	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部	1/4	-	(1.2)	6.0?	-	33.4	普通	雲母・海綿骨針・ 赤色細粒(シヤ モット状)	10YR 7/4 にぶい黄緑	10YR 7/4 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
10	7	38	-	SD01	セ619 SD001 19一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/2	-	(1.4)	6.0	-	41.4	普通	雲母・海綿骨針・ 赤色細粒(シヤ モット状)	7.5YR 6/6 黄緑	7.5YR 6/6 黄緑	見込み横方向ナズ 上げ、ロクロ整形	XIII	右回転
10	7	39	-	SD01	セ619 SD001 19一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.5)	6.0?	-	17.4	普通	輝石・黒色細粒	10YR 6/3 にぶい黄緑	10YR 6/3 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転
10	7	40	-	SD01	セ619 SD001 19一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(1.4)	5.3?	-	18.5	普通	雲母・海綿骨針	10YR 6/4 にぶい黄緑	10YR 6/4 にぶい黄緑	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XII~ XIII	右回転

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)			重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備寺 区分	備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		
10	7	41	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.8)	6.8?	-	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	10YR 7/4 にぶい、黄緑	10YR 7/4 にぶい、黄緑	底部回転系切り痕、 底部突出をナテ消す	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	右回転
10	7	42	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(1.1)	6.0?	-	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕ナ テ消し、底部外面に 網代状正痕	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	7	43	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/6	-	(1.9)	5.8?	-	普通	海綿骨針・黒色 細粒・赤色細粒 (シヤモット状)	10YR 7/6 明黄緑	10YR 7/6 明黄緑	底部回転系切り痕ナ テ消し、底部突出部 ナテ消し	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	7	44	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.75)	6.2?	-	普通	海綿骨針・白色細 粒	10YR 5/6 黄緑	10YR 5/6 黄緑	底部回転系切り痕 ロクロ整形	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XII	
10	7	45	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/5	-	(1.55)	6.2?	-	普通	黒色細粒・赤色細 粒(シヤモット 状)	10YR 8/2 灰白 浅黄緑	10YR 8/3 浅黄緑	底部回転系切り痕 ロクロ整形	ロクロ整形	XIII	白焼き風
10	7	46	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/5	-	(0.9)	5.6?	-	普通	黒色細粒	10YR 6/6 明黄緑	10YR 6/6 明黄緑	底部回転系切り痕ナ テ消し	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	7	47	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/5	-	(1.85)	6.0?	-	普通	海綿骨針・輝石	10YR 7/4 にぶい、黄緑	10YR 7/4 にぶい、黄緑	底部回転系切り痕 ロクロ整形	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	7	48	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	小型杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(1.2)	5.0?	-	普通	雲母・海綿骨針	10YR 7/4 にぶい、黄緑	10YR 7/4 にぶい、黄緑	底部回転系切り痕ナ テ消し	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	7	49	-	SD01	セ619 SD001 C一拵・D一 拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(1.1)	4.5	-	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕ナ テ消し、底部突出部 ナテ調整	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	右回転
10	5	50	-	SD01	セ619 SD001 D一拵×10	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	底部 全周 口縁部 1/4	-	1.8	3.9	7.5	普通	石英・白色細粒	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕、 網目状正痕	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII	
10	5	51	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	4/5	-	(1.9)	5.6	8.0?	普通	赤色細粒(シヤ モット状)	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕 ロクロ整形	ロクロ整形	XII~ XIII	
10	7	52	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(1.1)	5.0	-	普通	海綿骨針・輝石	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕一 部ナテ消し、底部突 出をナテ消す	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XII~ XIII	右回転
10	7	53	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	全周	-	(0.8)	5.1	-	普通	赤色細粒(シヤ モット状)	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	底部回転系切り痕 ロクロ整形	ロクロ整形	XII~ XIII	
10	7	54	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世 在土器 カアラケ	小皿	底部・胴 部の一部	小片	-	(1.7)	5.2?	8.3?	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	10YR 6/6 明黄緑	10YR 6/6 明黄緑	底部回転系切り痕ナ テ消し	見込み横方向ナテ、 ロクロ整形	XIII~ XIV	
10	5	55	-	SD01	セ619 SD001 16	中世 在土器 カアラケ	柱状高 台土器	高台部	全周	-	(3.5)	7.2	-	普通	雲母・黒色細粒	10YR 6/4 にぶい、黄緑	10YR 6/4 にぶい、黄緑	底部ナテ調整、高台 部側面ナテ調整	-	XI~ XII	
10	7	56	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世陶器	瓶蓋類	胴部の一 部	小片	-	(5.6)	-	-	良好	褐色細粒	2.5GY 3/1 暗オリーブ灰	7.5Y 5/1 灰	胴部下部に灰軸、縦 方向に刻印あり	ナテ調整		渥美産
10	7	57	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世陶器	三節壺	胴部の一 部	小片	-	(4.0)	-	-	良好	黒色粒・砂粒	7.5GY 7/1 明緑灰	7.5GY 6/1 緑灰	全面的に施軸	横方向にナテ調整		渥美産 (2b 型式: 12 世紀末~13 世 紀初頭)
10	7	58	-	SD01	セ619 SD001 D一拵	中世陶器	皿類	口縁部・ 胴部の一 部	小片	-	(2.1)	-	-	良好	黒色細粒	7.5Y 5/1 灰	7.5Y 6/1 灰	胴部表面が発泡によ り膨張	口縁部付近発泡に より膨張		トリへに転用か 宿清産

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トク 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 (cm)		重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備寺 区分	備考	
										口径	器高				底径	最大幅	外面	内面			外面
11	7	60	-	SD01	セ619 SD001 20一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	2/3	-	(1.5)	6.0	普通	赤色細粒(シヤ モット状)	7.5YR 7/8 黄褐色	7.5YR 7/8 黄褐色	底部回転糸切り痕ナ ズ消し、底部外面に 網代状圧痕	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII		
11	7	61	-	SD01	セ619 SD001 20一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.5)	7.1?	普通	黒色細粒・海綿骨 針	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	底部回転糸切り痕一 部ナズ消し、底部突 出部ナズ消し	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII		
11	7	62	-	SD01	セ619 SD001 E一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.6)	6.2?	普通	雲母・海綿骨針・ 黒色細粒	7.5YR 6/4 にぶい黄褐色	7.5YR 5/6 明褐色	底部静止糸切り痕の 後に一部ナズ調整 彩	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形、内面赤 彩	XII		
11	7	63	-	SD01	セ619 SD001 E一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	小片	-	(2.1)	5.0?	普通	海綿骨針・赤色細 粒(シヤモット 状)	7.5YR 6/4 にぶい黄褐色	7.5YR 7/4 にぶい黄褐色	底部回転糸切り痕一 部ナズ消し、底部突 出部ナズ消し	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XII		
11	7	64	-	SD01	セ619 SD001 20一拵	中世 在土器 カワラケ	小型杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(1.1)	6.4?	普通	雲母・海綿骨針	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色	底部回転糸切り痕僅 かにナズ消し	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XII~ XIII		
11	7	65	-	SD01	セ619 SD001 E一拵	中世 在土器 カワラケ	小型杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.15)	5.4?	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 6/6 明黄 褐色	10YR 6/6 明黄 褐色	底部回転糸切り痕一 部ナズ消し、底部突 出部ナズ消し、底部 に網代状圧痕	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転	
11	7	66	-	SD01	セ619 SD001 E一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胴 部の一部	小片	-	(1.5)	5.1?	普通	輝石・雲母	10YR 7/4 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	底部回転糸切り痕	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形、内部底 面に油染み付着	XII~ XIII	灯明皿	
11	7	67	-	SD01	セ619 SD001 E一拵	中世 在土器 カワラケ	小皿	底部・胴 部の一部	1/6	6.7?	1.1	5.6?	普通	黒色細粒・赤色細 粒(シヤモット 状)	10YR 6/3 にぶい黄褐色	10YR 7/4 にぶい黄褐色	底部回転糸切り痕	ロクロ整形	XII~ XIII		
11	7	68	-	SD01	セ619 SD001 19一拵×1・ 20一拵×2	中世 在土器 カワラケ	瓶壺類	底部・胴 部の一部	1/4	-	(11.2)	8.0?	良好	白色細粒	7.5YR 4/2 灰褐色	10YR 5/3 にぶい黄褐色	ナズ調整、胴部下部 の一部にスミ痕あり	胴部下部から底面 にかけて自然釉、胴 部上部に指頭痕			常滑産
11	7	69	-	SD01	セ619 SD001 20一拵	中世 在土器 カワラケ	片口鉢	口縁部・ 胴部の一 部	小片	-	(5.9)	-	57.9	良好	小石・白色細粒	5YR 5/3 にぶい赤褐色	5YR 5/3 にぶい赤褐色	ナズ調整	ナズ調整、口縁部頂 に自然釉		片口鉢Ⅱ類 常滑産
11	7	72	-	SD01	セ619 SD001 14	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/4	-	(1.7)	5.6?	普通	海綿骨針・黒色細 粒	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	底部回転糸切り痕一 部ナズ消し、底部突 出部ナズ消し	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII		
11	7	73	-	SD01	セ619 SD001 F一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/6	-	(1.4)	5.8?	普通	雲母・黒色細粒	10YR 6/6 明黄褐色	10YR 6/6 明黄褐色	底部回転糸切り痕	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII	右回転	
11	5	74	-	SD01	セ619 SD001 21一拵	中世 在土器 カワラケ	柱状高 台土器	高台部	4/5	-	(4.4)	7.1	普通	輝石・海綿骨針	10YR 4/1 褐色	10YR 5/2 灰黄褐色	底部回転ヘラ切り離 し、高台部ナズ調整	ロクロ整形	XI~ XII		
11	7	76	-	SD01	セ619 SD001 23一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	底部・胴 部の一部	1/3	-	(1.8)	5.0?	普通	石英・海綿骨針・ 赤色細粒	10YR 7/6 明黄褐色	10YR 7/6 明黄褐色	底部回転糸切り痕一 部ナズ消し、底部突 出部ナズ消し	見込み横方向ナズ、 ロクロ整形	XIII		
11	7	77	-	SD01	セ619 SD001 22一拵	中世 在土器 カワラケ	杯	口縁部・ 胴部の一 部	小片	10.8?	(2.7)	5.4?	普通	赤色細粒(シヤ モット状)	2.5Y 5/3 黒褐色	2.5Y 3/1 黒褐色	ロクロ整形	ロクロ整形	X~XI		

郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トク 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 (cm)			重量 (g)	胎土	色調	焼成	備考
							長さ	幅	厚さ					
11	7	70	-	SD01	セ619 SD001 20一拵	転用砥石	6.2	2.9	1.0	24.1	海綿骨針・黒色細粒	普通	カワラケの小片を砥石に転用か	

郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 石製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別		寸法 (cm)		重量 (g)	色調	備考
						長さ (径)	幅 (孔)	長さ	厚さ (高さ)			
11	7	75	-	SD01	セ 619 SD001 21 一括	不明石製品	8.7	5.9	6.1	318.0	10YR 6/2 灰黄褐	

郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地 金属製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 (cm)		重量 (g)	備考
							長さ (長径)	幅 (短径)		
9	6	32	-	SD01	セ 619 SD001 7	鍔滓	6.7	5.9	169.8	椀型滓
10	7	59	-	SD01	セ 619 SD001 19 一括	トリベたまは別口	3.0	3.5	27.3	
11	7	71	-	SD01	セ 619 SD001 20 一括	鍔滓	6.8	5.35	148.7	椀型滓

山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 (cm)		焼成	胎土	色調		特徴		備考		
							長さ	幅			重量 (g)	厚さ	外面	内面		外面	内面
13	8	1	1	-	セ 621 1トレ-1	円筒埴輪	(3.6)	-	1.4	24.4	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/6 明褐	ナデ調整	ナデ	断面に輪襷接合痕跡
13	8	2	1	-	セ 621 1トレ-1	円筒埴輪	(4.4)	-	1.7	44.7	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄褐	(7本/2cm)	横方向に不鮮明なハケメ	
13	8	3	1	-	セ 621 1トレ-1	円筒埴輪	(5.0)	-	1.1	41.7	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	10YR6/4 にぶい黄褐	2.5Y6/4 にぶい黄	(6本/2cm)	横方向ナデ	断面に輪襷接合痕跡

山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 1) 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	口徑	器高	底徑	寸法 (cm)		重量 (g)	胎土	色調		特徴		時期	備考
													口徑	底徑			最大幅	最大幅	外面	内面		
14	8	1	-	SM001	セ 622 5トレ-1	土師器	杯	口縁部 ~底部	1/4	13.2?	4.4	-	13.5?	38.6	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	10YR 5/4 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	口縁部下縦方向ハケメケズリ	横方向ヘラミガキ	鬼高式	

山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 1) 土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト/P 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 (cm)		重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		備考	
							長さ	幅				厚さ	外面	内面	外面		内面
14	8	2	-	SM001	セ 621 2トレ-1	円筒埴輪	(7.6)	-	1.0	34.1	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	口縁部強い横方向ハケメ 口縁部下縦方向ハケメ	横方向ナデ	
14	8	3	-	SM001	セ 621 3トレ-1	円筒埴輪	(3.3)	-	1.4	31.3	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	口唇部を強くナデ、角頭状を呈する 口縁部下に不鮮明な縦方向ハケメ	縦方向ハケメ (5本/2cm)	断面に輪襷接合痕跡
14	8	4	-	SM001	セ 622 5トレ-1	円筒埴輪	(3.5)	-	0.8	23.6	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい黄褐	口縁部強い横方向ハケメ 口縁部下に不鮮明な縦方向ハケメ	縦方向ハケメ (7本/2cm)	
14	8	5	-	SM001	セ 622 5トレ-1	円筒埴輪	(2.7)	-	1.4	17.7	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・スコリア状橙色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	口縁部強い横方向ハケメ 口縁部下に不鮮明な縦方向ハケメ	縦方向ハケメ (7本/2cm)	
14	8	6	-	SM001	セ 622 6トレ-1	円筒埴輪	(3.0)	-	1.2	21.0	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	口縁部強い横方向ハケメ 口縁部下に不鮮明な縦方向ハケメ	縦方向ナデ	

山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点) 石製品観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	寸法(cm)		重量(g)	色調	備考
						長さ(径)	幅(孔)			
14	8	7	-	SM001	セ6223トレ-1	不明軽石製品	2.6	1.8	1.0	10YR 7/3 にぶい黄褐色 側面と背面に擦痕

五霊台遺跡(第4地点) 土器観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トナリ番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法(cm)			重量(g)	焼成	胎土	色調		特徴	時期	備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面			
17	8	1	1	-	セ6231トレ-3	土師器	壺	肩部	小片	-	(4.7)	-	28.1	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	7.5YR 5/4 にぶい黄褐色	10YR 5/6 黄褐色	横方向ハケメ(8本/1cm)	草刈式	
18	8	4	2	002	セ623002-2	土師器	甕	胴部	小片	-	(2.9)	-	8.5	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	7.5YR 5/6 明褐色	7.5YR 5/6 明褐色	横方向ハケメ(8本/1cm)	草刈式	
18	8	5	2	003	セ623003-3	土師器	甕	口縁部～頸部	小片	14.4?	(3.6)	-	14.4	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR 5/4 にぶい黄褐色	(2.9)	横方向ハケメ(8本/1cm)	草刈式	
18	8	6	2	003	セ623003-7	土師器	甕	底部	1/5	-	(3.8)	5.2?	15.0?	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	7.5YR 6/6 橙褐色	7.5YR 6/6 橙褐色	縦方向ハケメ(14本/1cm)	草刈式	
18	8	7	2	-	セ6232トレ-2	土師器	甕	口縁部	小片	16.0?	(4.1)	-	24.5	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	7.5YR 6/4 にぶい黄褐色	7.5YR 4/2 灰褐色	横方向ハケメ	平安時代?	
18	8	8	2	-	セ6232トレ-2	土師器	甕	胴部	小片	-	(4.2)	-	27.2	緻密	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR 2/1 黒褐色	10YR 5/6 黄褐色	横方向ハケメ	和泉式	
18	8	10	3	010	セ623010-1	土師器	甕・甕	底部	全周	-	(1.4)	6.6	63.2	緻密	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	7.5YR 5/6 明褐色	7.5YR 2/1 黒褐色	ハラナデ	草刈式	
18	5	11	3	010	セ623010-1	土師器	高杯	胴部～底部	全周	-	(7.0)	10.8	181.6	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	7.5YR 6/6 橙褐色	7.5YR 6/6 橙褐色	横方向ハケメ	草刈式	
18	8	12	3	-	セ6233トレ-2	土師器	甕	口縁部～頸部	小片	14.8?	(4.4)	-	26.3	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR 4/1 褐灰褐色	10YR 4/1 褐灰褐色	横方向ハケメ	和泉式	
18	8	13	3	-	セ6233トレ-3	土師器	甕	底部	1/5	-	(2.7)	6.8?	37.9	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR 5/6 黄褐色	10YR 5/6 黄褐色	横方向ハケメ	草刈～和泉式	
18	8	14	3	-	セ6233トレ-1	土師器	杯	口縁部～体部	1/5	13.4?	(2.9)	-	6.9	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	5YR 5/8 明赤褐色	5YR 5/8 明赤褐色	横方向ハケメ	古墳時代終末期	
18	8	15	3	-	セ6233トレ-1	土師器	甕	口縁部	小片	-	(1.3)	-	2.4	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR 5/3 にぶい黄褐色	10YR 5/3 にぶい黄褐色	横方向ハケメ	中台式	
18	8	16	3	-	セ6233トレ-2	土師器	壺	胴部	小片	-	(5.0)	-	19.6	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR 6/6 明黄褐色	10YR 6/6 明黄褐色	横方向ハケメ	草刈式	
18	8	17	3	-	セ6233トレ-1	土師器	台付甕	底部	小片	-	(2.9)	-	8.0	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR 5/4 にぶい黄褐色	10YR 5/4 にぶい黄褐色	横方向ハケメ	草刈式	
18	8	18	3	-	セ6233トレ-1	土師器	杯	口縁部	小片	-	(2.1)	-	3.4	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	7.5YR 4/2 灰褐色	7.5YR 4/2 灰褐色	横方向ハケメ	古墳時代終末期	
18	8	19	4	014	セ623014-4	土師器	甕	口縁部～頸部	1/5	16.2?	(4.9)	-	43.4	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	5YR 5/6 明赤褐色	5YR 5/6 明赤褐色	口縁部下横方向ハケメ(11本/1cm)	草刈式	
18	8	20	4	014	セ623014-2	土師器	甕	胴部	小片	-	(5.7)	-	24.2	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR 5/3 にぶい黄褐色	10YR 5/4 にぶい黄褐色	横方向ハケメ	和泉式	
18	5	21	4	014	セ623014-1	土師器	小型壺	完形	-	12.6	13.7	3.1	508.0	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	7.5YR 5/8 明赤褐色	7.5YR 5/8 明赤褐色	横方向ハケメ	和泉式	焼成後に底部穿孔
18	8	22	4	014	セ623014-3	土師器	甕	胴部	小片	-	(3.9)	-	31.3	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	7.5YR 3/3 明黄褐色	10YR 5/3 にぶい黄褐色	横方向ハケメ(8本/1cm)	草刈式	
18	8	23	4	-	セ6234トレ-1	土師器	杯	口縁部～底部	1/3	15.2?	5.3?	3.4	62.6	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR 6/4 にぶい黄褐色	10YR 6/4 にぶい黄褐色	横方向ハケメ	草刈式	
18	8	24	4	-	セ6234トレ-1	土師器	高杯	胴部	小片	-	(0.7)	13.8?	7.0	良	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	10YR 6/4 にぶい黄褐色	7.5YR 7/6 橙褐色	ハラミガキ	草刈式	
18	8	25	4	-	セ6234トレ-1	土師器	甕	口縁部～胴部	小片	-	(7.3)	-	37.1	緻密	石莖・長石・透明粒子・白色粒子・黒色粒子	2.5YR 5/6 明赤褐色	2.5YR 5/6 明赤褐色	横方向ハケメ	和泉式	

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	ト/ハ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遊存	寸法 (cm)			焼成	胎土	色調		特徴		時期	備考
											口径	器高	底径			最大幅	重量 (g)	胎土	外面		
18	8	26	015 号	5	18	セ623 015-1	土師器	杯	口縁部 ~体部	1/5	12.8?	(4.2)	-	12.8?	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子・海面骨針	10YR3/4 暗褐	10YR3/3 暗褐	ハケム(8本/1 cm)を施した後、 横方向へラミミガ キ、赤彩	横方向平滑へラミ ミガキ	草刈式	
18	8	27	015 号	5	18	セ623 015-1	土師器	高杯	口縁部 ~体部	小片	-	(4.6)	-	17.7	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子・海面骨針	2.5YR5/4 にぶ い赤褐	2.5YR5/6 明赤 褐	へラミミガキ、赤彩	へラミミガキ、赤彩	草刈式	

五霊台遺跡(第4地点) 土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	ト/ハ 番号	注記	種別	器種	部位	周遊存	重量 (g)	寸法 (cm)		焼成	胎土	色調		特徴		備考
											長さ	幅			胎土	外面	内面	外面	
17	8	2	-	1	17	セ623 1 トレ-2	土甕	(4.4)	(3.2)	1.9	19.7	良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・ 黒色粒子	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐	ナデ	貫通孔を施すが、調整粗い		
18	8	28	-	5	18	セ623 5 トレ-1	羽口	(3.8)	(2.9)	(3.0)	24.9	不良	石英・長石・透明粒子・白色粒子・ 黒色粒子	10YR5/3 にぶい、黄褐	10YR5/3 にぶい、黄褐	被熱して脆い、 残滓が付着、一部融解	調整粗い		

五霊台遺跡(第4地点) 石製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	ト/ハ 番号	注記	種別	重量 (g)	寸法 (cm)		色調	備考		
								長さ(径)	幅(孔)			厚さ(高さ)	
17	8	3	1	-	17	セ623 1 トレ-2	磨石	6.3	5.6	4.1	206.4	10YR 5/3 にぶい、黄褐	磨痕顕著、珪質石材

五霊台遺跡(第4地点) 金属製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	ト/ハ 番号	注記	種別	重量 (g)	寸法 (cm)		備考		
								長さ(長径)	幅(短径)		厚さ	
18	8	9	2	-	18	セ623 2 トレ-2	鉄滓	3.2	2	1.4	12.4	粒状滓

五霊台遺跡(第4地点1) 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構 番号	ト/ハ 番号	注記	種別	器種	部位	周遊存	重量 (g)	焼成	胎土	色調		特徴		時期	備考
													口径	器高	底径	最大幅		
19	8	1	-	SM001	セ624 SM001-2	土師器	小型丸底 系鉢	頸部 ~底部	1/5	12.0	良	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子・海面骨針	2.5YR 4/6 赤 褐	5YR 5/6 明赤 褐	へラミミガキ 赤彩	へラミミガキ 赤彩	草刈式	
19	8	2	-	SM001	セ624 SM001-2	土師器	高杯	口縁部 ~体部	小片	13.4	良	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子	10YR 5/3 に ぶい、黄褐	10YR 3/1 黒 褐	横方向へラミ ミガキ	横方向へラミミガ キ	草刈式	
19	8	3	-	SM001	セ624 SM001-1	土師器	高杯	裾部	1/5	17.6	良	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子	5YR 5/6 明赤 褐	5YR 5/6 明赤 褐	へラミミガキ 赤彩	横方向ナデ 横方向ハケム (8本/1cm)	草刈式	
19	8	4	-	SM001	セ624 SM001-2	土師器	甕	胴部 ~底部	1/5	83.1	良	石英・長石・透明粒子・白色 粒子・黒色粒子	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	縦方向ケズリ	横方向へラミミガ キ	和泉式	





郡本遺跡群（郡本地区第35次） 調査前状況（北東から）



郡本遺跡群（郡本地区第35次） 1トレンチ（東から）



郡本遺跡群（郡本地区第35次） 2トレンチ（西から）



郡本遺跡群（郡本地区第35次） 作業状況（南西から）



郡本遺跡群（郡本地区第36次） SD01 最深部（東から）



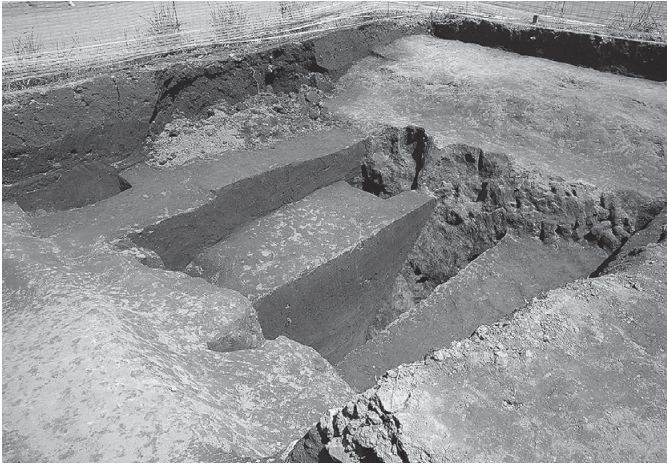
郡本遺跡群（郡本地区第38次） 浄化槽範囲 Pit01・02 検出状況（北から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01 検出状況（スイッチバック前 南から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） 作業状況（南西から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01（スイッチバック前 南西から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01 最深部（スイッチバック前 南から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01 検出状況（スイッチバック後 南から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01（スイッチバック後 北東から）



郡本遺跡群（郡本地区第38次） SD01 最深部（スイッチバック後 北東から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点） 発掘前状況（北西から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点） 1トレンチ 堆積状況（北西から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点） 1トレンチ 作業状況（北東から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点）1トレンチ（北東から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点）2トレンチ 作業状況



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点）2トレンチ（南西から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点）墳丘部（北東から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点1）SM001 中央部 完掘（南西から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点1）SM001（浄化槽位置）完掘（南西から）



山新遺跡・姉崎二子塚古墳（第5地点1）SM001（北西部）堆積状況（南東から）



五霊台遺跡（第4地点）発掘前状況（西から）



五霊台遺跡 (第4地点) 1トレンチ 作業状況 (南西から)



五霊台遺跡 (第4地点) 1トレンチ 遺構検出状況 (東から)



五霊台遺跡 (第4地点) 2トレンチ 遺構検出状況 (東から)



五霊台遺跡 (第4地点) 3トレンチ 遺構検出状況 (西から)



五霊台遺跡 (第4地点) 4トレンチ 遺構検出状況 (東から)



五霊台遺跡 (第4地点) 5トレンチ 遺構検出状況 (南西から)



五霊台遺跡 (第4地点1) SM001 半截 (南西から)



五霊台遺跡 (第4地点1) SM001 完掘 (東から)



郡本遺跡群 (郡本地区第 36 次) SD01-19



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-35



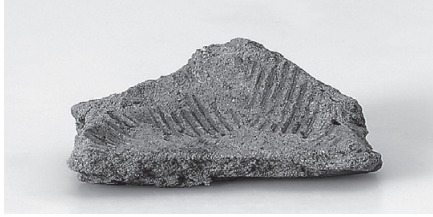
五霊台遺跡 (第 4 地点) 010 号-11



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-14



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-50



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-16



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-51



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-22



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-55



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-23



郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-74

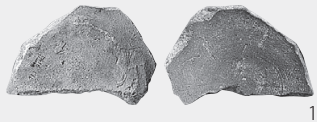


郡本遺跡群 (郡本地区第 38 次) SD01-31

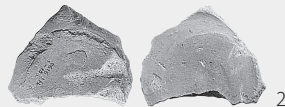
五霊台遺跡 (第 4 地点) 014 号-21

郡本遺跡群 (郡本地区第 35 次)

1 トレンチ



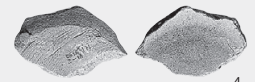
1



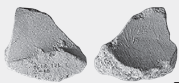
2



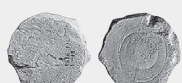
3



4



5



6



7



8

郡本遺跡群 (郡本地区第 36 次)

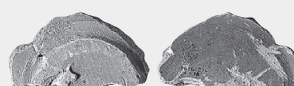
SD01



1



2



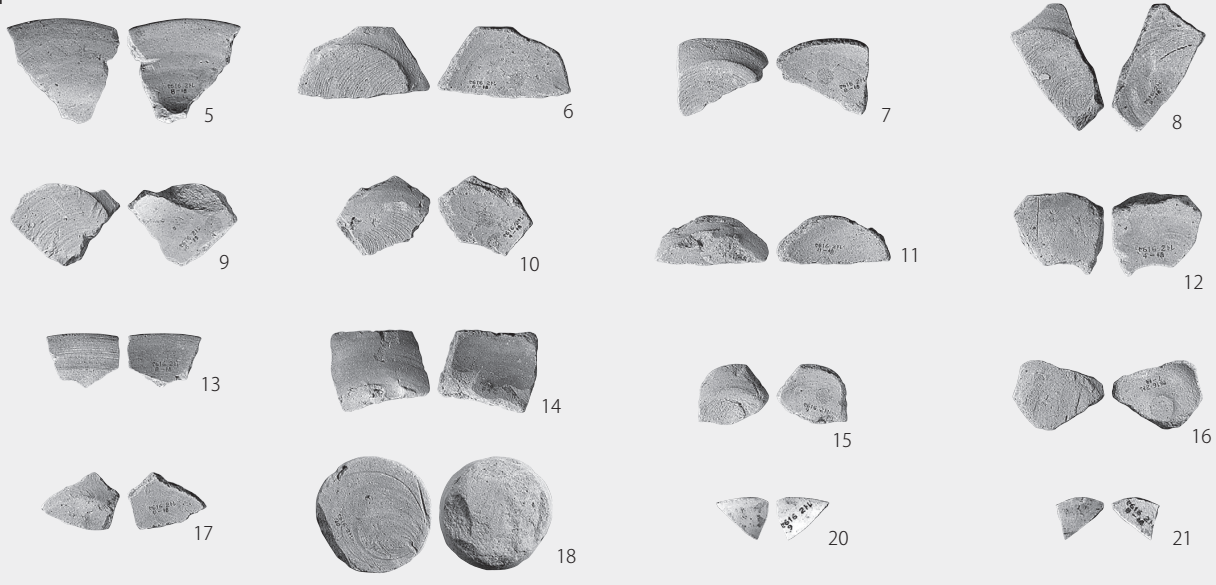
3



4

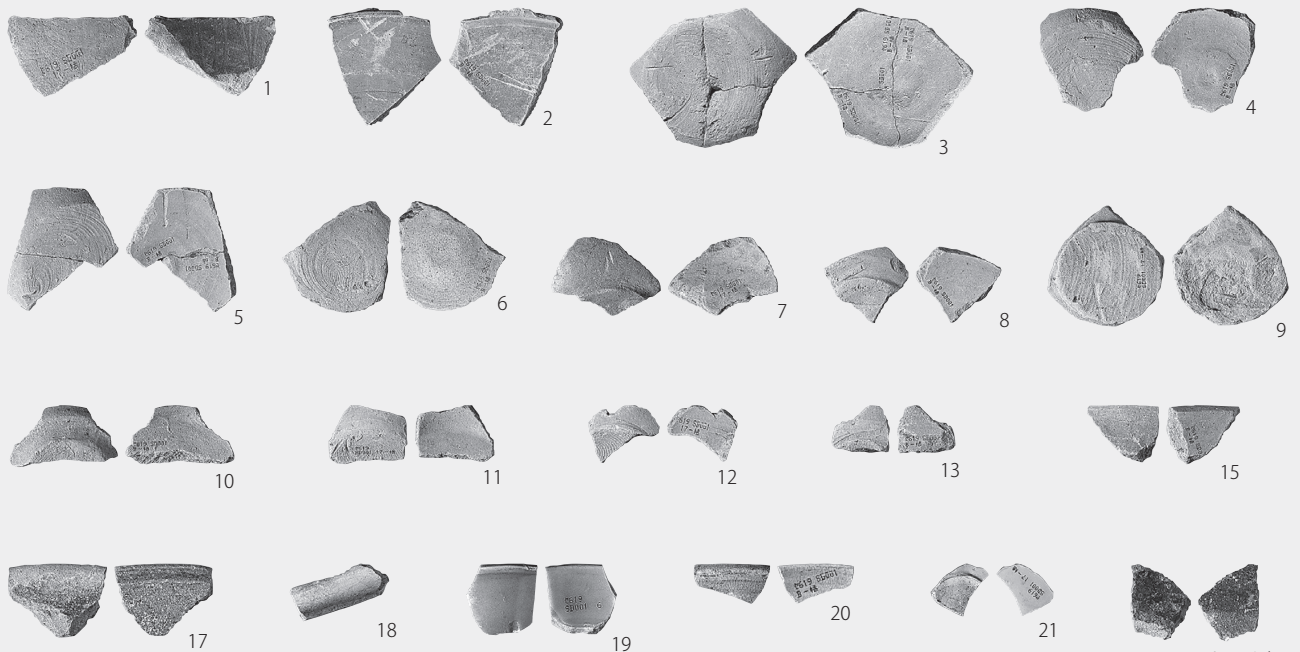
郡本遺跡群 (郡本地区第36次)

SD01

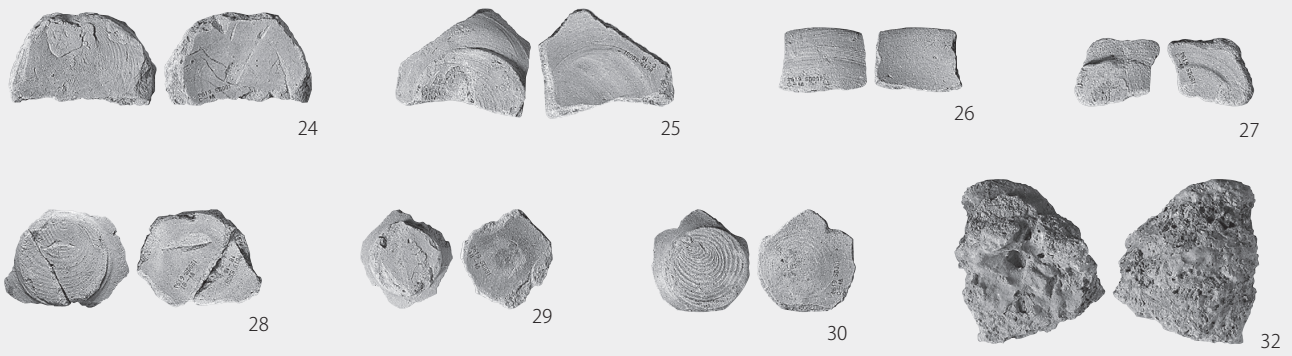


郡本遺跡群 (郡本地区第38次)

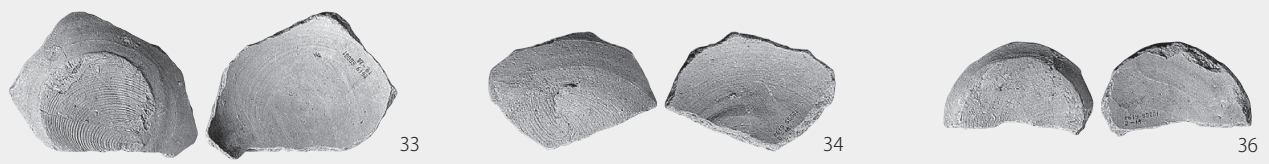
SD01 (標高約 21.3~20.8 m)



SD01 (標高約 20.8~20.3 m)

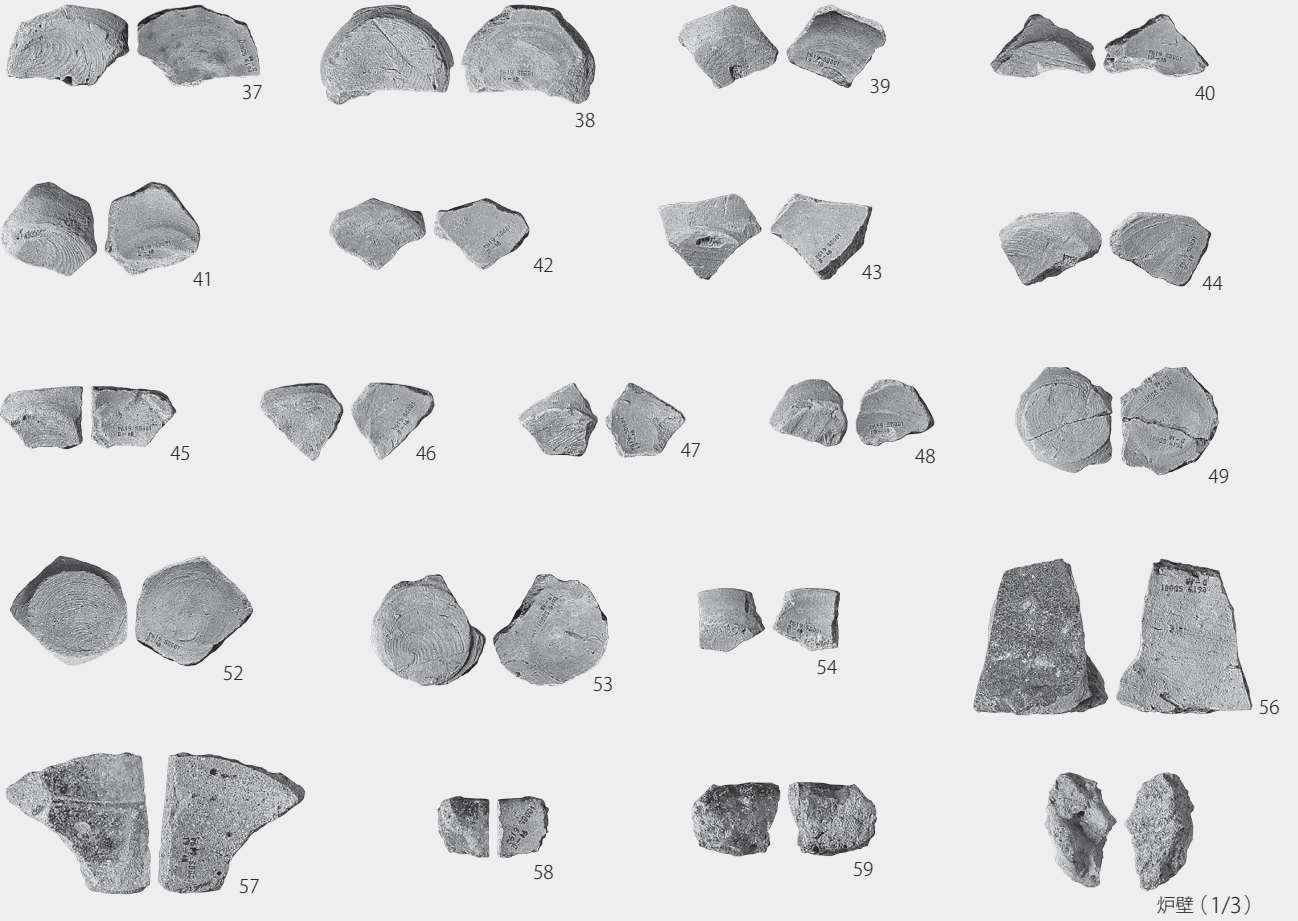


SD01 (標高約 20.3~19.8 m)

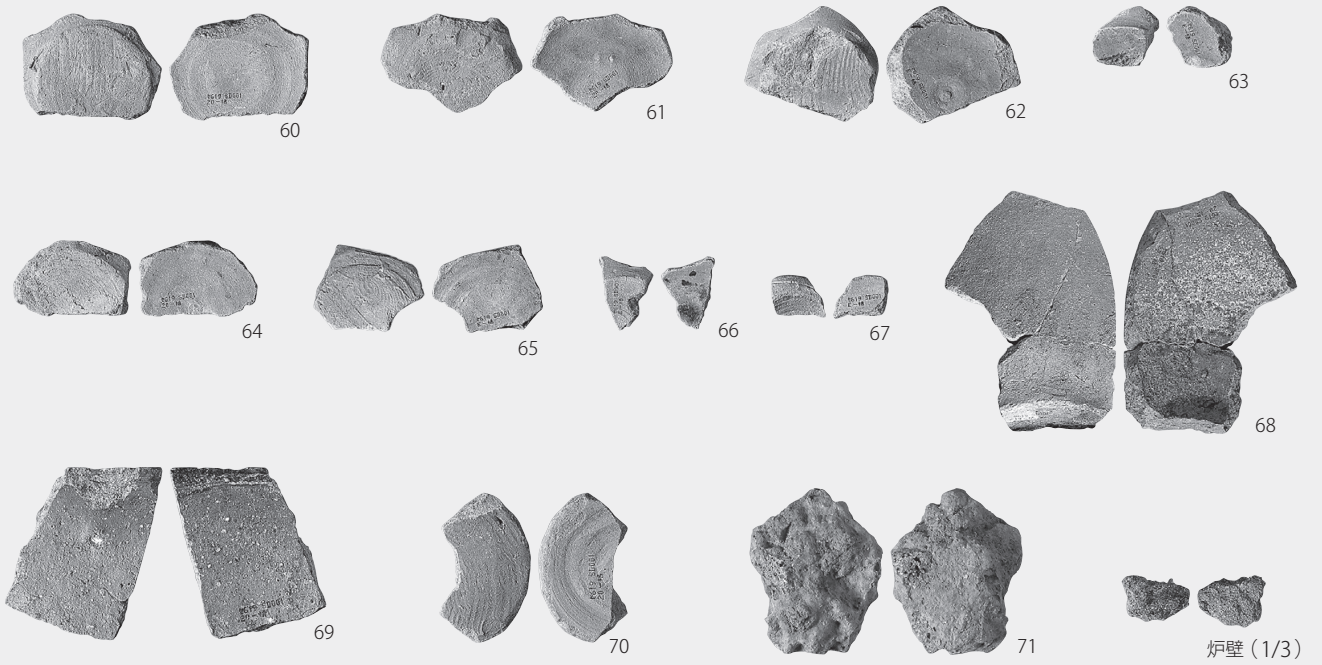


郡本遺跡群 (郡本地区第38次)

SD01 (標高約 20.3~19.8 m)

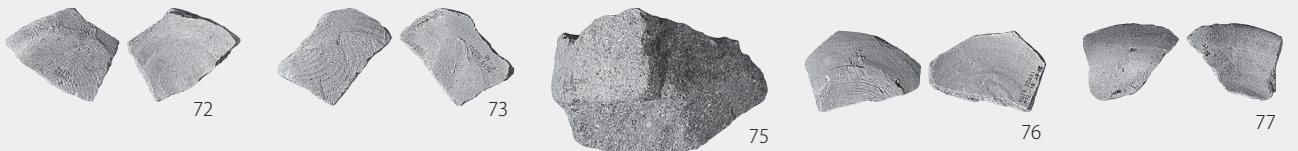


SD01 (標高約 19.8~19.3 m)



SD01 (標高約 19.3 m~底面)

SD01 (遺構一括取り上げ遺物)



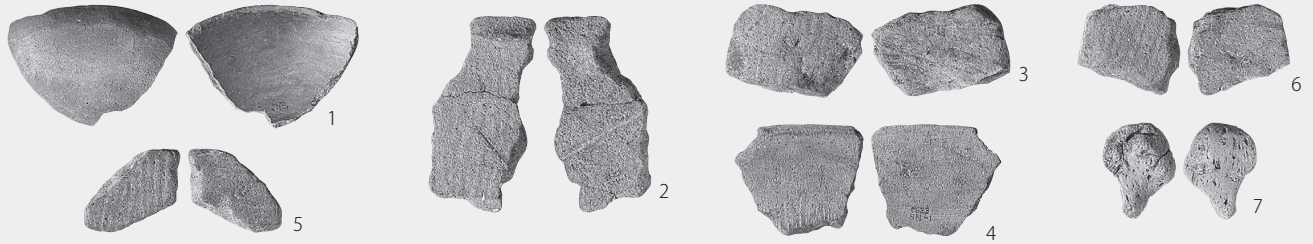
山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)

1トレンチ



山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)

SM001

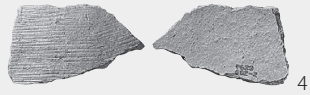


五霊台遺跡(第4地点)

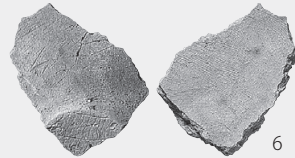
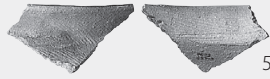
1トレンチ



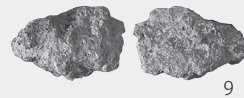
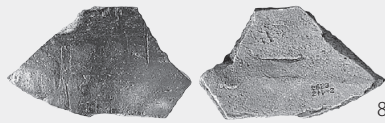
002号



003号



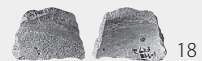
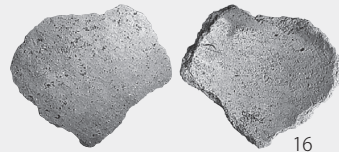
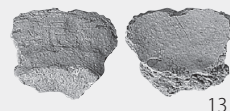
2トレンチ



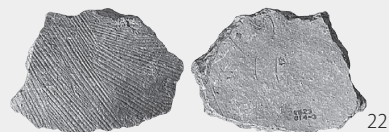
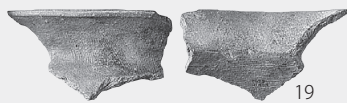
010号



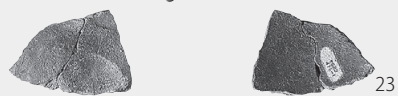
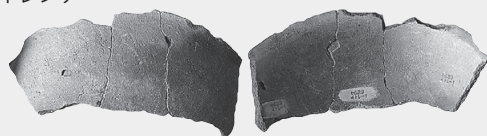
3トレンチ



014号



4トレンチ



015号

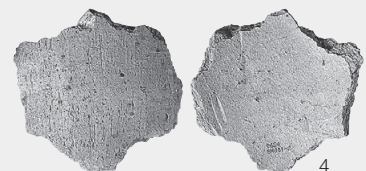


5トレンチ



五霊台遺跡(第4地点1)

SM001



報告書抄録

ふりがな	れいわ6ねんどいちほらしなしいせきはつくつちようさほうこく							
書名	令和6年度市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地、郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地、郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)、五霊台遺跡(第4地点)、五霊台遺跡(第4地点1)							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	川上知哉・鈴木宏和							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2025年(令和7年)3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こおりもといせきぐん(こおりもとちくだい35じ)・郡本遺跡群(郡本地区第35次)・いちほらぐんがすいていち市原郡衙推定地	ちほけんいちほらしこおりもと千葉県市原市郡本1丁目173番1	12219	793 794	36° 10' 40"	139° 11' 35"	20231208 ～ 20231226	18.8㎡ /188㎡ (確認調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(こおりもとちくだい36じ)・郡本遺跡群(郡本地区第36次)・いちほらぐんがすいていち市原郡衙推定地	ちほけんいちほらしこおりもと千葉県市原市郡本1丁目173番1	12219	793 794	36° 10' 40"	139° 11' 35"	20231226 ～ 20231227	3.25㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(こおりもとちくだい38じ)・郡本遺跡群(郡本地区第38次)・いちほらぐんがすいていち市原郡衙推定地	ちほけんいちほらしこおりもと千葉県市原市郡本1丁目173番1	12219	793 794	36° 14' 13"	139° 14' 35"	20240405 ～ 20240502	85.78㎡ (本調査)	個人住宅建設
ざんしんいせき・山新遺跡・あねさきふたごづかこふん(だい5ちてん)姉崎二子塚古墳(第5地点)	ちほけんいちほらしあねさき千葉県市原市姉崎1763番地2	12219	349 327	35° 28' 51"	140° 03' 10"	20240826 ～ 20240828	32.763㎡ /327.63㎡ (確認調査)	個人住宅建設
ざんしんいせき・山新遺跡・あねさきふたごづかこふん(だい5ちてん1)姉崎二子塚古墳(第5地点1)	ちほけんいちほらしあねさき千葉県市原市姉崎1763番地2	12219	349 327	35° 28' 51"	140° 03' 10"	20240829 ～ 20240906	63.97㎡ (本調査)	個人住宅建設
ごりようだいいせき(だい4ちてん)五霊台遺跡(第4地点)	ちほけんいちほらしいづあざごりようだい千葉県市原市椎津字五霊台652番地6	12219	308	35° 28' 12"	140° 02' 11"	20241030 ～ 20241107	29.7㎡ /297㎡ (確認調査)	個人住宅建設
ごりようだいいせき(だい4ちてん1)五霊台遺跡(第4地点1)	ちほけんいちほらしいづあざごりようだい千葉県市原市椎津字五霊台652番地6	12219	308	35° 28' 12"	140° 02' 11"	20241108 ～ 20241111	3.68㎡ (本調査)	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地	包蔵地、集落跡、官衙跡、鍛冶跡	中世	中世溝1条	中世在地土器・陶器、鉄滓		方形区画をなすと見られる中世の堀跡を検出した。		
郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地	包蔵地、集落跡、官衙跡、鍛冶跡	中世	中世溝1条	中世在地土器・陶器、鉄滓		方形区画をなすと見られる中世の堀跡を検出した。		
郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地	包蔵地、集落跡、官衙跡、鍛冶跡	中世	中世溝1条、時期不明土坑2基	平安時代土師器・須恵器、中世在地土器・陶器・磁器、鉄滓		方形区画をなすと見られる中世の堀跡を検出した。堀内側に土塁が築造されていた可能性がある。		
山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)	包蔵地、古墳	古墳時代	古墳周溝1基	古墳時代埴輪		姉崎二子塚古墳の周溝が確認された。		
山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)	包蔵地、古墳	古墳時代	古墳周溝1基	古墳時代埴輪・土師器		姉崎二子塚古墳の周溝が確認された。		
五霊台遺跡(第4地点)	包蔵地、集落跡	古墳時代、奈良時代、平安時代	古墳時代中期円墳周溝2基、古墳時代前期竪穴建物跡5棟・土坑3基、奈良・平安時代竪穴建物跡1棟、時期不明土坑4基・溝1条	古墳時代土師器・土製品		古墳時代中期の円墳周溝と古墳時代前期・奈良・平安時代の竪穴建物跡を検出した。		
五霊台遺跡(第4地点1)	包蔵地、集落跡	古墳時代、奈良時代、平安時代	古墳時代中期円墳周溝1条	古墳時代土師器		古墳時代中期の円墳の周溝を検出した。		
要約	<p>令和6年度は、郡本遺跡群(郡本地区第38次)・市原郡衙推定地、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点)、山新遺跡・姉崎二子塚古墳(第5地点1)、五霊台遺跡(第4地点)、五霊台遺跡(第4地点1)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点)、椎津城跡・五霊台遺跡(第5地点1)、郡本遺跡群(郡本地区第39次第36地点)、郡本遺跡群(郡本地区第40次第36地点1)、君塚天神山古墳の計10地点の発掘調査を行った。このうち前半の5地点に加えて、令和5年度後半に調査した郡本遺跡群(郡本地区第35次)・市原郡衙推定地、郡本遺跡群(郡本地区第36次)・市原郡衙推定地の成果も併せて掲載している。</p> <p>郡本遺跡群(郡本地区第35・36・38次)では13世紀代に存続期間を持つ大規模な堀跡が検出された。姉崎二子塚古墳(第5地点)および姉崎二子塚古墳(第5地点1)では、姉崎二子塚古墳の周溝が確認された。五霊台遺跡(第4地点)および五霊台遺跡(第4地点1)では、古墳時代中期の円墳周溝と古墳時代前期の竪穴建物跡を多数検出し、第1地点で確認されていた古墳時代前期の居住域と中期の円墳周溝群がさらに北側にも展開していることが分かった。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第67集

## 令和6年度 市原市内遺跡発掘調査報告

令和7年3月21日 発行

編集発行

市原市教育委員会  
市原市埋蔵文化財調査センター  
千葉県市原市能満1489  
TEL 0436(41)9000

印刷

株式会社 弘文社  
千葉県市川市市川南2-7-2  
TEL 047(324)5977